

## 第4章 分野別調査の調査結果

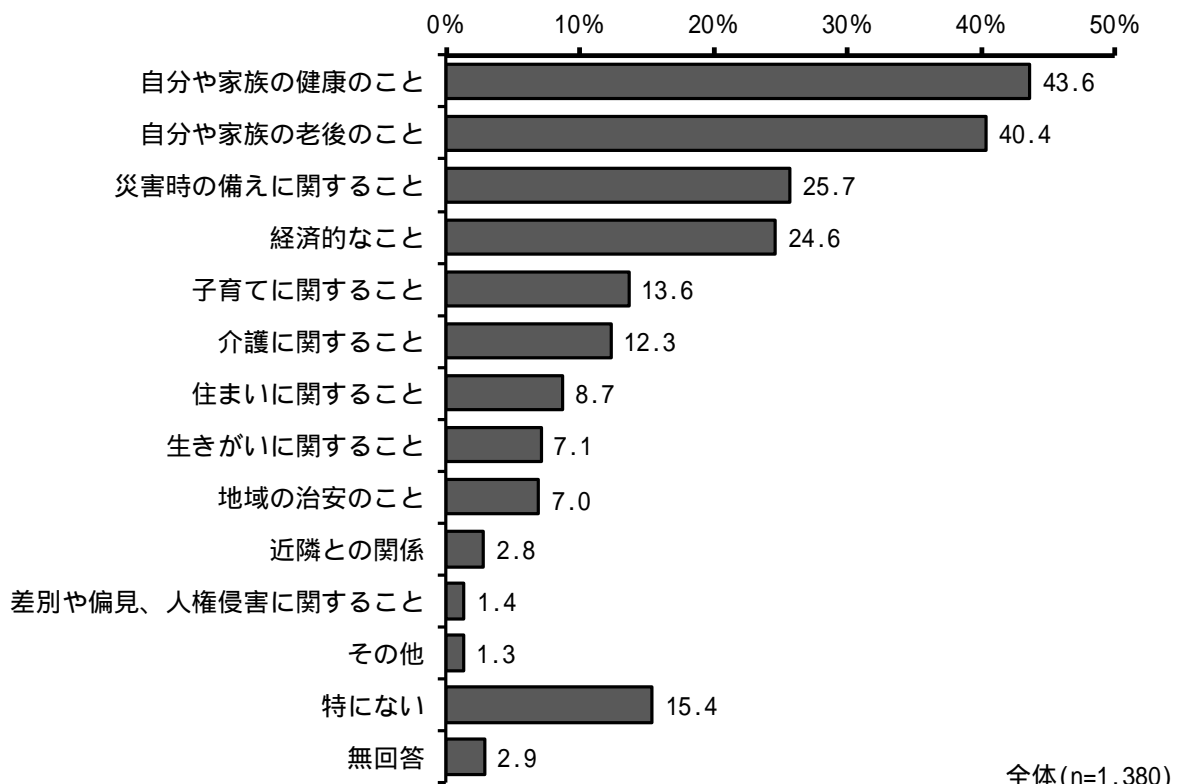


# 1 地域福祉分野調査

## 日常生活における悩みや不安の内容

日常生活においてどのような悩みや不安を感じているかたずねました。

- ・ 81.7%の人が日常生活において悩みや不安を感じています。
- ・ 「自分や家族の健康のこと」(43.6%)が最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」(40.4%)、「災害時の備えに関すること」(25.7%)と続いています。



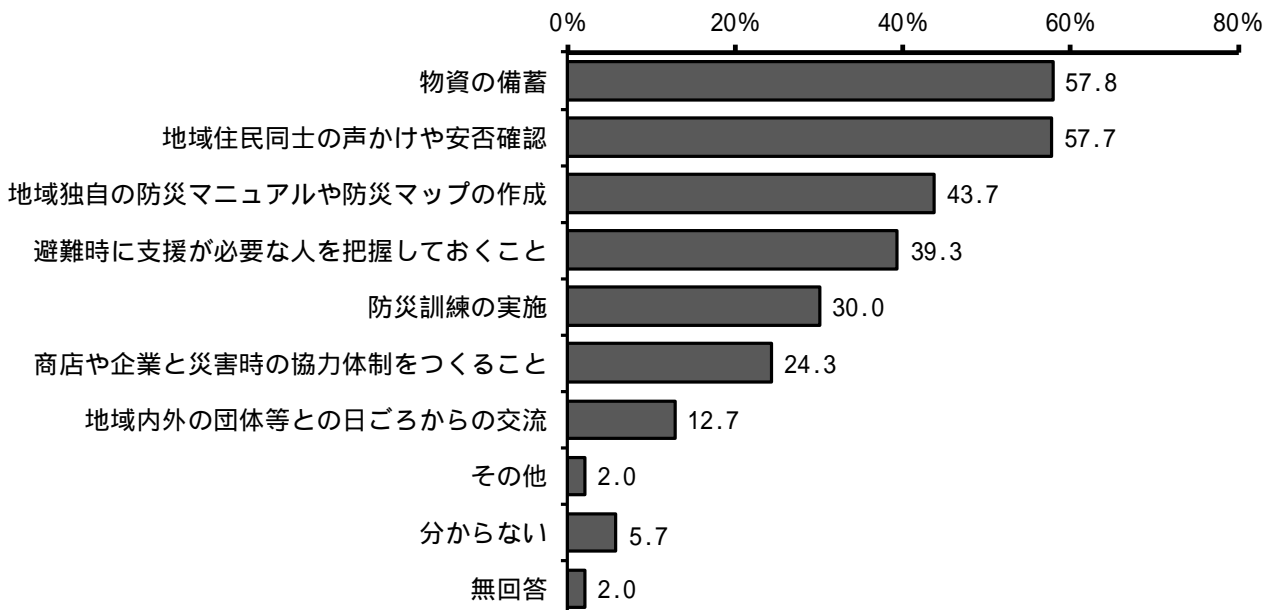
全体(n=1,380)

複数回答

## 災害に備えて地域で取り組むとよいと思うもの

災害に備えて地域で取り組むとよいと思うものについてたずねました。

- ・ 「物資の備蓄」(57.8%)が最も多く、次いで「地域住民同士の声かけや安否確認」(57.7%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(43.7%)と続いています。
- ・ 文化センター圏域別では、中央文化センター圏域、白糸台文化センター圏域、西府文化センター圏域、武蔵台文化センター圏域及び片町文化センター圏域で「物資の備蓄」が最も多く、新町文化センター圏域、住吉文化センター圏域、是政文化センター圏域、紅葉丘文化センター圏域、押立文化センター圏域及び四谷文化センター圏域で「地域住民同士の声かけや安否確認」が最も多くなっています。



全体 (n=1,380)

複数回答

		地域住民同士の声かけや安否確認	防災訓練の実施	地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成	地域内外の団体等との日ごろからの交流	物資の備蓄	商店や企業と災害時の協力体制をつくること	避難時に支援が必要な人を把握しておくこと	分からない	その他	無回答
全体	(n=1,380)	57.7	30.0	43.7	12.7	57.8	24.3	39.3	5.7	2.0	2.0
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	53.3	32.9	38.6	11.4	64.6	22.4	39.0	5.7	2.4	1.2
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	60.0	30.7	44.7	6.7	62.0	28.7	45.3	6.0	1.3	2.0
	西府文化センター圏域 (n=118)	58.5	29.7	48.3	12.7	60.2	31.4	40.7	2.5	1.7	0.8
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	60.5	38.4	43.0	14.0	70.9	22.1	34.9	3.5	1.2	1.2
	新町文化センター圏域 (n=137)	62.0	26.3	40.9	11.7	59.1	21.9	38.7	5.8	2.2	2.9
	住吉文化センター圏域 (n=141)	61.0	29.1	43.3	12.1	51.1	22.0	35.5	7.1	2.1	2.1
	是政文化センター圏域 (n=108)	56.5	35.2	47.2	16.7	46.3	20.4	39.8	5.6	1.9	4.6
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	56.9	30.2	48.3	14.7	56.0	27.6	40.5	5.2	0.9	0.9
	押立文化センター圏域 (n=60)	66.7	26.7	35.0	15.0	41.7	20.0	45.0	8.3	1.7	3.3
	四谷文化センター圏域 (n=69)	66.7	20.3	43.5	21.7	40.6	27.5	40.6	5.8	1.4	1.4
片町文化センター圏域 (n=131)	47.3	27.5	50.4	12.2	63.4	25.2	35.9	6.1	3.1	1.5	

## 近隣で手助けできること、手助けしている又はしたこと、手助けしてほしいこと

近隣に高齢者や障害等のある方、子育てなどで困っている世帯に  
手助けできること、手助けしている又はしたこと、手助けしてほしいことたずねました。

### (ア) 近隣で手助けできること

- ・ 80.4%の人が近隣で手助けできることがあると答えています。
- ・ 「日常の見守りや声かけ」(61.0%)が最も多く、次いで「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(52.3%)、「話し相手になること」(37.0%)と続いています。

### (イ) 近隣で手助けしている又はしたこと

- ・ 29.1%の人が近隣で手助けしている又はしたことがあると答えています。
- ・ 「日常の見守りや声かけ」(19.1%)が最も多く、次いで「話し相手になること」(14.9%)、「悩みごと、心配ごとの相談にのること」(6.5%)と続いています。

### (ウ) 近隣で手助けしてほしいこと

- ・ 47.0%の人が近隣で手助けしてほしいことがあると答えています。
- ・ 「災害時など非常時の安否確認や避難の手助け」(34.5%)が最も多く、次いで「日常の見守りや声かけ」(19.6%)、「話し相手になること」(8.7%)と続いています。

	(%)		
	(ア)	(イ)	(ウ)
	手	手	手
	助	助	助
	け	け	け
	で	し	し
	き	て	て
	る	い	い
	こ	る	る
	と	又	こ
		は	
		し	
		た	
		こ	
		と	
全体 (n=1,380)			
(1) 日常の見守りや声かけ	61.0	19.1	19.6
(2) 話し相手になること	37.0	14.9	8.7
(3) 悩みごと、心配ごとの相談にのること	20.9	6.5	6.6
(4) ちょっとした家事(買い物、ごみ出しなど)	23.8	3.8	5.8
(5) 掃除、洗濯、食事の用意の手伝い	7.5	2.0	3.5
(6) 短時間の子どもの預かり	12.9	4.7	6.4
(7) 保育園・幼稚園などの送迎	9.3	3.0	3.8
(8) 外出や通院時の付き添い	9.5	2.2	3.0
(9) 病気のときの看病	4.4	1.0	3.8
(10) 災害時など非常時の安否確認や避難の手助け	52.3	5.0	34.5
無回答	19.6	70.9	53.0

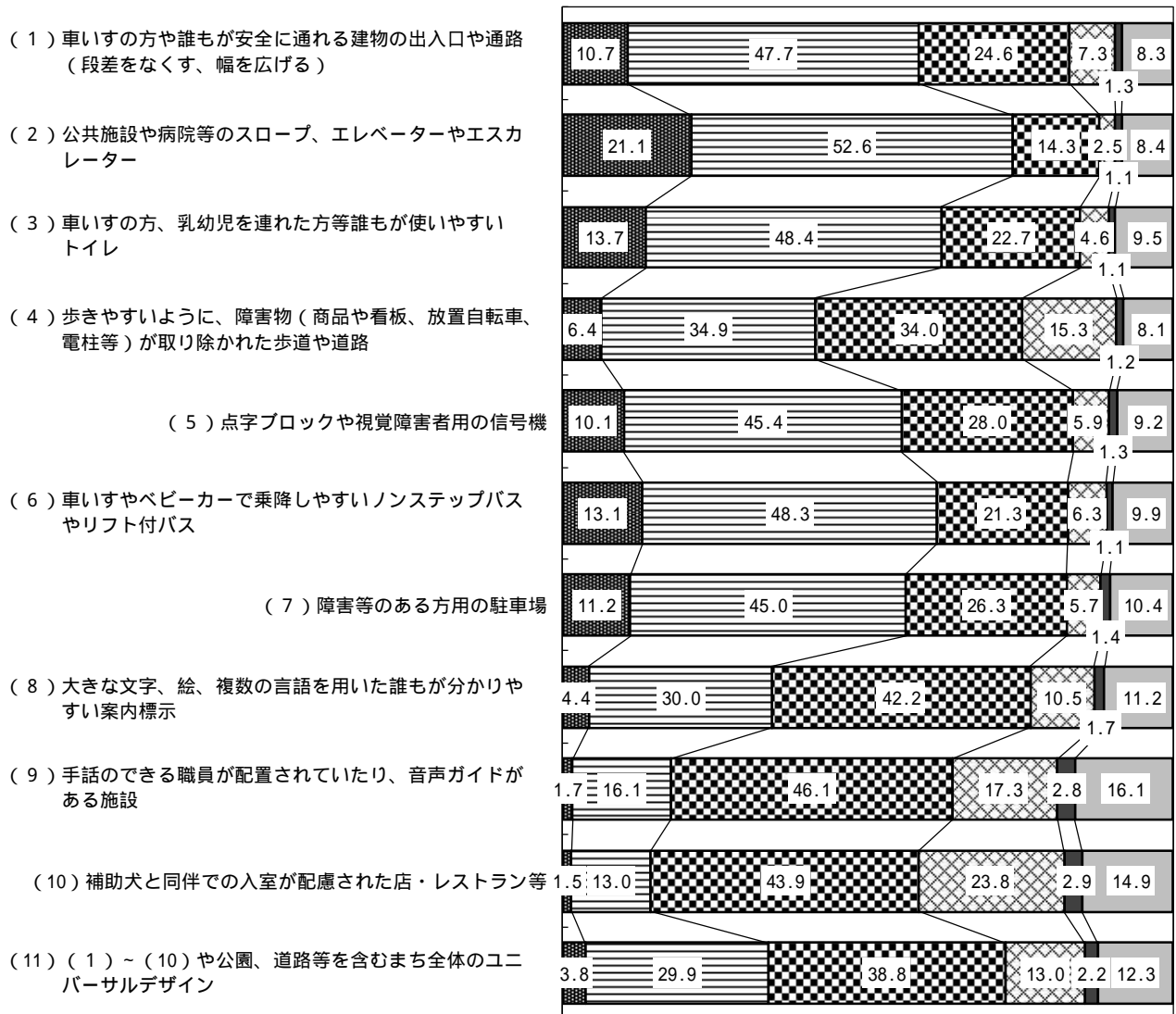
## 福祉のまちづくり（建築物、インフラ、情報案内）の状況

府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路等について  
誰にでも利用しやすく整備されているかたずねました。

- ・ 「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた《整備されている》の割合が『(1)車いすの方や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）』、『(2)公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』、『(3)車いすの方、乳幼児を連れた方等誰もが使いやすいトイレ』、『(5)点字ブロックや視覚障害者用の信号機』、『(6)車いすやベビーカーで乗降しやすいノンステップバスやリフト付バス』と『(7)障害等のある方用の駐車場』で5割を超えている。一方、『(9)手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』と『(10)補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストラン等』は1割台で低くなっている。

全体(n=1,380)

(%)



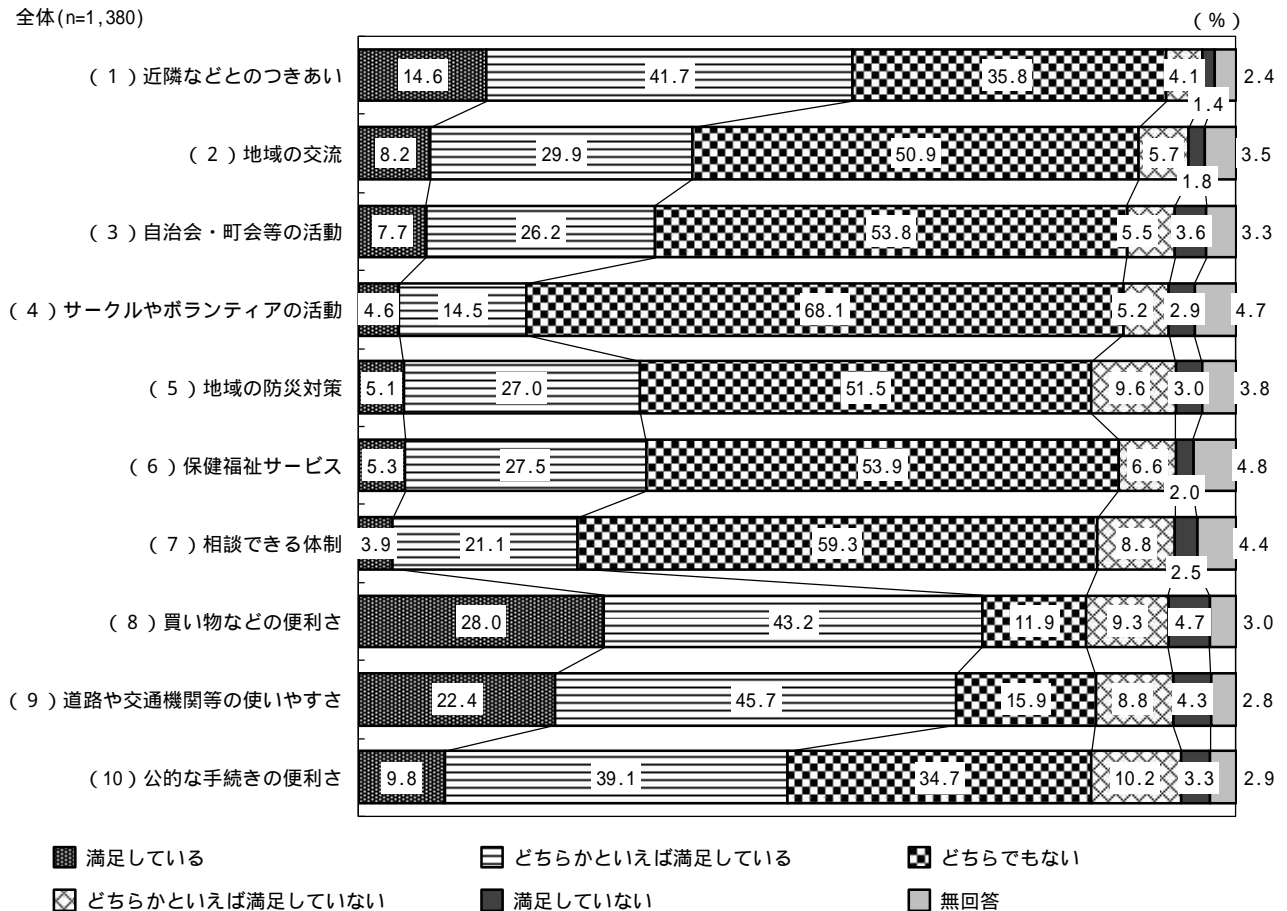
整備されている
  やや整備されている
  あまり整備されていない
  整備されていない
  整備の必要を感じない
  無回答

## 居住地域の満足度

現在、お住まいの地域の暮らしやすさについてたずねました。

- ・ 「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた《満足》の割合が『(8) 買い物などの便利さ』で71.2%、『(9) 道路や交通機関等の使いやすさ』で68.1%と高くなっています。一方、《満足》の割合が『(4) サークルやボランティアの活動』で19.1%、『(7) 相談できる体制』で25.0%と低くなっています。

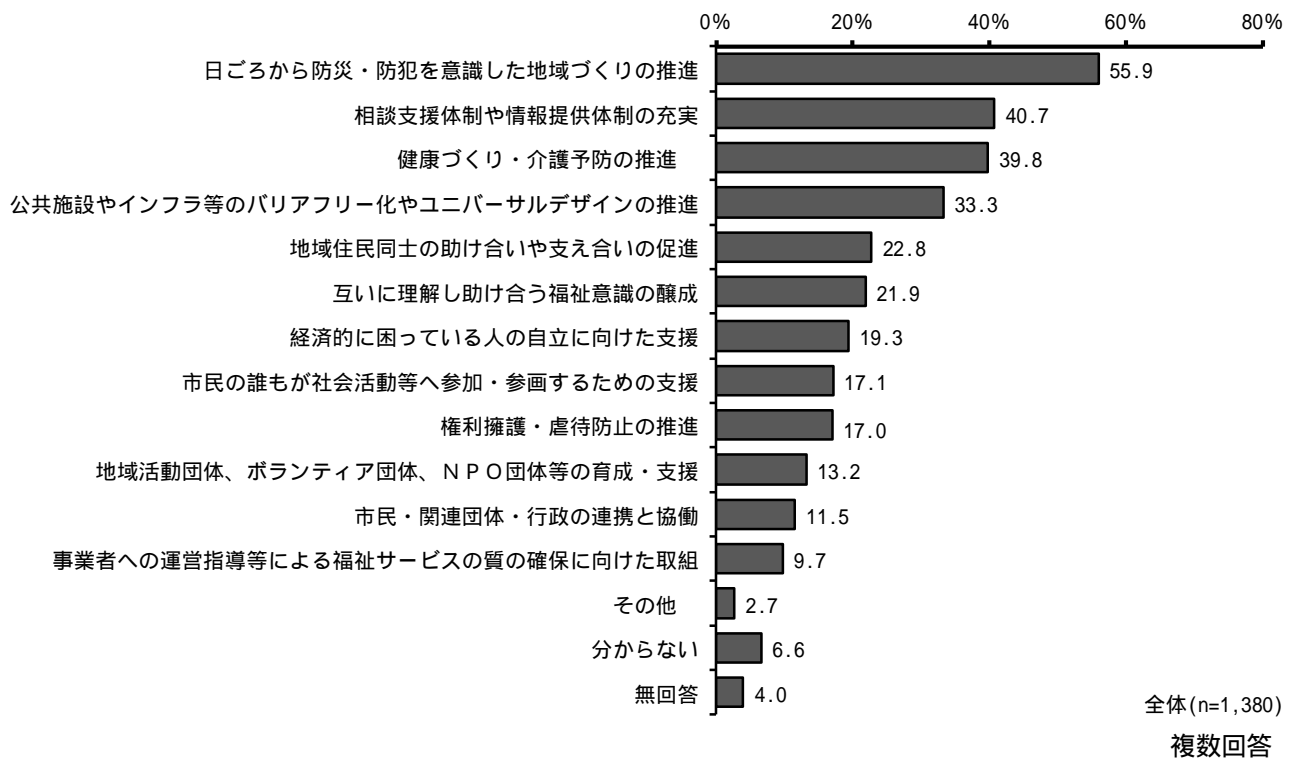
全体(n=1,380)



## 優先的に取り組むべき福祉施策

府中市ではどのような福祉施策に優先して取り組むべきだと思うかたずねました。

- ・ 「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」(55.9%)が最も多く、次いで「相談支援体制や情報提供体制の充実」(40.7%)、「健康づくり・介護予防の推進」(39.8%)と続いています。
- ・ 文化センター圏域別では、すべての圏域で「日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進」が最も多くなっており、特に四谷文化センター圏域は66.7%で全体を10.0ポイント以上上回っています。



		相談支援体制や情報提供体制の充実	権利擁護・虐待防止の推進	日ごろから防災・防犯を意識した地域づくりの推進	経済的に困っている人の自立に向けた支援	事業者への運営指導等による福祉サービスの質の確保に向けた取組	健康づくり・介護予防の推進	地域住民同士の助け合いや支え合いの促進	地域活動団体、ボランティア団体、NPO団体等の育成・支援	市民・関連団体・行政の連携と協働	互いに理解し助け合う福祉意識の醸成	市民の誰もが社会活動等へ参加・参画するための支援	公共施設やインフラ等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進	その他	分からない	無回答
全体	(n=1,380)	40.7	17.0	55.9	19.3	9.7	39.8	22.8	13.2	11.5	21.9	17.1	33.3	2.7	6.6	4.0
文化センター圏域	中央文化センター圏域 (n=246)	45.1	19.1	54.5	22.4	9.8	43.5	22.4	13.0	11.4	18.7	22.4	38.2	2.8	3.7	3.3
	白糸台文化センター圏域 (n=150)	46.7	16.0	51.3	21.3	9.3	42.0	23.3	11.3	14.0	20.7	18.7	38.0	2.7	8.0	3.3
	西府文化センター圏域 (n=118)	44.1	19.5	59.3	10.2	11.9	35.6	28.0	14.4	12.7	21.2	16.9	33.9	1.7	4.2	5.9
	武蔵台文化センター圏域 (n=86)	43.0	12.8	57.0	23.3	11.6	43.0	26.7	14.0	10.5	18.6	14.0	25.6	5.8	11.6	3.5
	新町文化センター圏域 (n=137)	41.6	17.5	53.3	20.4	13.1	35.8	21.2	14.6	16.1	23.4	17.5	29.9	2.2	8.0	3.6
	住吉文化センター圏域 (n=141)	36.9	14.2	56.0	21.3	12.1	40.4	24.8	13.5	9.9	29.8	14.2	26.2	0.0	7.1	3.5
	是政文化センター圏域 (n=108)	37.0	19.4	60.2	13.9	6.5	30.6	17.6	16.7	4.6	25.0	15.7	24.1	4.6	6.5	6.5
	紅葉丘文化センター圏域 (n=116)	37.9	19.8	56.9	25.9	6.9	44.8	19.0	13.8	11.2	19.8	17.2	33.6	2.6	4.3	3.4
	押立文化センター圏域 (n=60)	30.0	13.3	63.3	23.3	8.3	36.7	26.7	11.7	10.0	25.0	13.3	36.7	1.7	5.0	6.7
	四谷文化センター圏域 (n=69)	37.7	13.0	66.7	13.0	7.2	47.8	23.2	7.2	8.7	20.3	15.9	37.7	5.8	4.3	1.4
片町文化センター圏域 (n=131)	38.2	16.0	51.9	16.8	9.2	36.6	20.6	13.0	13.7	20.6	15.3	38.9	2.3	9.2	2.3	



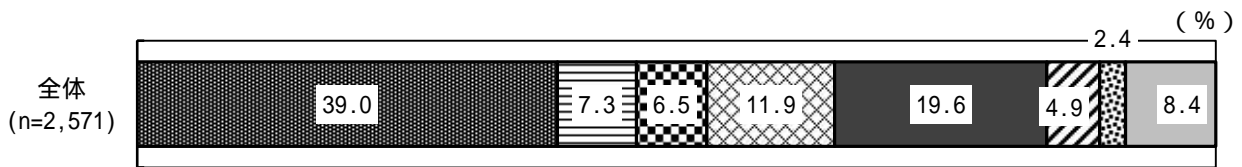
## 2 高齢者福祉分野調査

### (1) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

#### 介護予防に関する支援策

介護予防に対するお考えをたずねました。

- ・ 「意識して取り組んでいる」(39.0%)が最も多く、次いで「興味はあるが、具体的な取り組み方が分からない」(19.6%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(11.9%)、「体力が落ちてきたら取り組みたい」(7.3%)、「もう少し歳をとってから取り組みたい」(6.5%)と続いている。
- ・ 「意識的に取り組んでいる」は、『男性』(33.3%)よりも『女性』(42.9%)の方が高い。また、『65～69歳』では34.3%、『85～89歳』では47.0%と、90歳未満では年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。



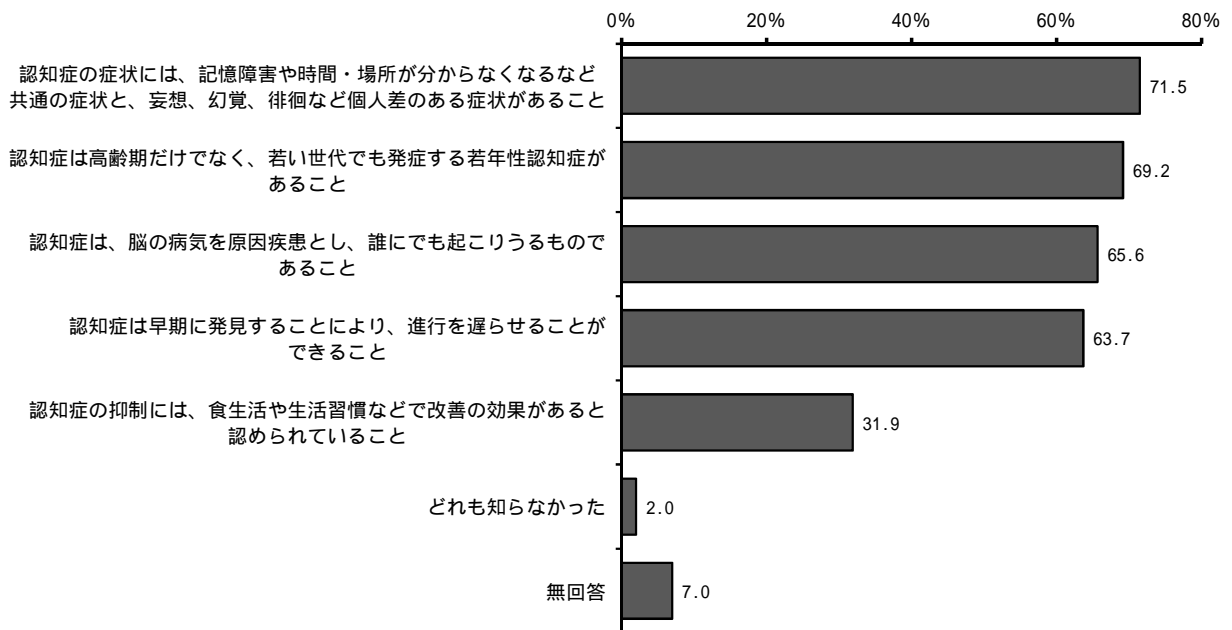
- 意識して取り組んでいる
- もう少し歳をとってから取り組みたい
- 興味はあるが、具体的な取り組み方が分からない
- その他
- 体力が落ちてきたら取り組みたい
- きっかけがあれば取り組みたい
- 興味・関心がない
- 無回答

		意識して取り組んでいる	体力が落ちてきたら取り組みたい	もう少し歳をとってから取り組みたい	きっかけがあれば取り組みたい	興味はあるが、具体的な取り組み方が分からない	興味・関心がない	その他	無回答	
全 体 (n=2,571)		39.0%	7.3%	6.5%	11.9%	19.6%	4.9%	2.4%	8.4%	
要支援認定	非認定者(自立) (n=1,612)	39.3%	8.9%	8.3%	13.6%	18.2%	4.8%	1.9%	5.0%	
	要支援1・2 (n=637)	46.3%	3.5%	1.7%	8.3%	21.4%	4.2%	4.1%	10.5%	
性別	男性 (n=1,015)	33.3%	8.7%	8.8%	12.0%	22.0%	7.2%	2.5%	5.6%	
	女性 (n=1,484)	42.9%	6.5%	5.2%	11.9%	18.1%	3.4%	2.4%	9.6%	
年齢	65～69歳 (n=504)	34.3%	8.3%	13.9%	14.1%	18.8%	5.0%	2.2%	3.4%	
	70～74歳 (n=566)	38.3%	8.3%	8.5%	14.7%	18.2%	5.3%	1.1%	5.7%	
	75～79歳 (n=573)	37.2%	8.2%	4.9%	13.3%	21.1%	4.4%	2.4%	8.6%	
	80～84歳 (n=464)	40.5%	6.9%	3.4%	8.8%	20.5%	4.1%	3.0%	12.7%	
	85～89歳 (n=336)	47.0%	5.1%	1.8%	7.4%	18.2%	5.1%	3.6%	11.9%	
	90歳以上 (n=103)	39.8%	2.9%	0.0%	5.8%	23.3%	8.7%	4.9%	14.6%	
性別 × 年齢	男性	65～74歳 (n=480)	28.8%	8.8%	13.8%	13.8%	21.5%	8.5%	1.7%	3.3%
		75～84歳 (n=404)	35.4%	9.9%	5.4%	12.4%	20.3%	6.4%	3.5%	6.7%
		85歳以上 (n=130)	43.8%	4.6%	0.8%	4.6%	28.5%	4.6%	2.3%	10.8%
	女性	65～74歳 (n=580)	43.1%	7.9%	9.0%	15.2%	15.7%	2.4%	1.4%	5.3%
		75～84歳 (n=605)	41.0%	6.3%	3.3%	10.6%	21.2%	2.8%	2.3%	12.6%
		85歳以上 (n=293)	46.4%	4.4%	1.7%	7.5%	16.4%	6.5%	4.8%	12.3%

## 認知症に関する啓発

認知症について知っていることたずねました。

- ・ 「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所が分からなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(71.5%)が最も多く、次いで「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(69.2%)、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(65.6%)、「認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること」(63.7%)と続いている。
- ・ 一方、「どれも知らなかった」は2.0%となっている。
- ・ 全体的に年齢が低いほど知っている割合が高くなっている。



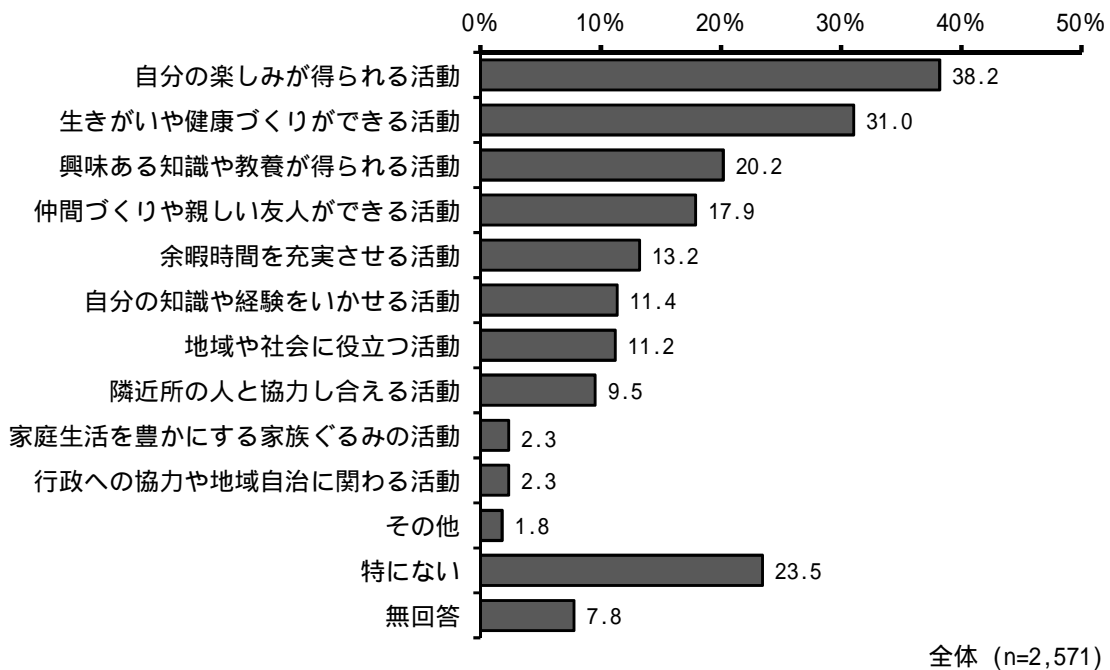
全体 (n=2,571)

		認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること	認知症の症状には、記憶障害や時間・場所が分からなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること	認知症の抑制には、食生活や生活習慣などで改善の効果があると認められていること	認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること	認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること	どれも知らなかった	無回答	
全体	(n=2,571)	65.6%	71.5%	31.9%	69.2%	63.7%	2.0%	7.0%	
要支援認定	非認定者(自立)	(n=1,612) 72.0%	77.4%	37.8%	77.3%	67.6%	0.7%	3.6%	
	要支援1・2	(n=637) 60.3%	66.7%	24.6%	60.3%	61.7%	3.5%	8.6%	
性別	男性	(n=1,015) 67.5%	70.7%	30.9%	63.6%	55.7%	1.7%	6.2%	
	女性	(n=1,484) 65.2%	73.2%	32.8%	73.8%	69.4%	2.1%	6.9%	
年齢	65～69歳	(n=504) 73.0%	81.2%	39.9%	81.7%	68.5%	0.6%	3.6%	
	70～74歳	(n=566) 71.7%	74.0%	35.3%	75.4%	67.1%	1.1%	5.1%	
	75～79歳	(n=573) 66.7%	71.7%	31.4%	69.3%	66.5%	1.4%	5.8%	
	80～84歳	(n=464) 58.0%	66.4%	26.1%	61.4%	58.0%	1.9%	10.3%	
	85～89歳	(n=336) 60.1%	64.9%	27.1%	56.0%	58.3%	4.2%	10.7%	
90歳以上	(n=103) 46.6%	60.2%	14.6%	51.5%	49.5%	10.7%	10.7%		
性別×年齢	男性	65～74歳	(n=480) 71.0%	74.2%	32.1%	68.8%	56.0%	1.7%	4.6%
		75～84歳	(n=404) 65.1%	67.8%	31.9%	60.6%	55.0%	1.2%	7.7%
		85歳以上	(n=130) 62.3%	67.7%	23.8%	54.6%	56.9%	3.1%	6.9%
	女性	65～74歳	(n=580) 73.3%	80.3%	42.1%	86.6%	77.2%	0.2%	4.3%
		75～84歳	(n=605) 62.1%	71.1%	27.4%	70.1%	68.3%	1.8%	7.4%
85歳以上	(n=293) 55.6%	63.8%	24.9%	56.0%	56.3%	6.5%	11.3%		

## 地域活動への参加の推進方策

これから参加したい活動をたずねました。

- ・ 「自分の楽しみが得られる活動」(38.2%)が最も多く、次いで「生きがいや健康づくりができる活動」(31.0%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(20.2%)、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」(17.9%)と続いている。
- ・ 一方、「特にない」は23.5%となっている。
- ・ 『85～89歳』では、「自分の楽しみが得られる活動」(28.3%)と「生きがいや健康づくりができる活動」(24.7%)の割合が同程度となっている。また、『90歳以上』では、同じ割合(18.4%)となっている。



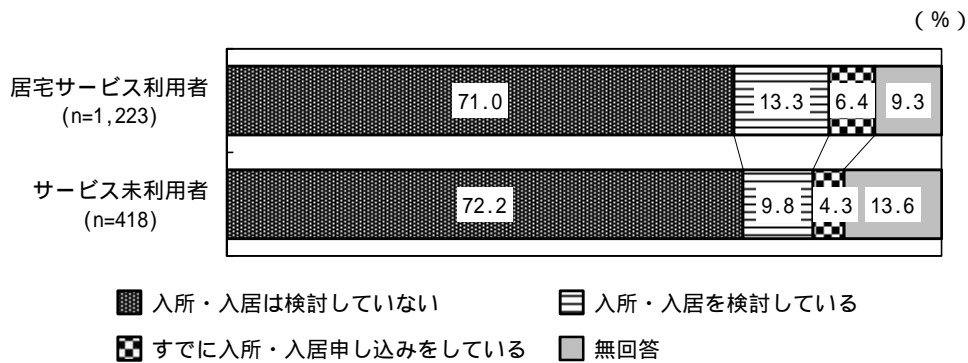
		自分 の活 動し み が 得 ら れ る	興 味 あ る 知 識 や 教 養 が 得 ら れ る	自 分 の 知 識 や 経 験 を い か せ る	生 き が い や 健 康 づ き り が で き る	余 暇 時 間 を 充 実 さ せ る	仲 間 づ き り や 親 し い 友 人 が で き る	隣 近 所 の 人 と 協 力 し 合 え る	家 庭 生 活 を 豊 か に す る	地 域 や 社 会 に 役 立 つ	行 政 へ の 協 力 や 地 域 自 治 に 関 わ る	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体	(n=2,571)	38.2%	20.2%	11.4%	31.0%	13.2%	17.9%	9.5%	2.3%	11.2%	2.3%	1.8%	23.5%	7.8%	
要支援 認定	非認定者(自立) (n=1,612)	43.1%	24.0%	13.7%	33.9%	16.3%	17.9%	9.5%	2.7%	14.5%	3.0%	1.4%	19.5%	4.8%	
	要支援1・2 (n=637)	31.2%	16.0%	6.1%	28.3%	8.6%	19.2%	10.0%	1.6%	6.3%	1.1%	2.8%	28.9%	10.4%	
性別	男性 (n=1,015)	37.6%	18.6%	16.6%	27.2%	15.8%	16.1%	9.6%	3.3%	13.2%	3.7%	1.7%	26.0%	5.5%	
	女性 (n=1,484)	39.2%	22.0%	7.8%	34.2%	11.9%	19.3%	9.7%	1.8%	10.1%	1.5%	1.8%	21.3%	8.7%	
年齢	65～69歳 (n=504)	47.4%	27.6%	14.3%	35.3%	18.1%	17.3%	7.5%	3.0%	17.7%	2.8%	1.2%	17.3%	2.6%	
	70～74歳 (n=566)	41.3%	24.7%	14.0%	31.8%	16.6%	18.7%	9.0%	1.9%	13.4%	3.5%	1.4%	21.9%	5.1%	
	75～79歳 (n=573)	36.6%	14.8%	10.3%	33.2%	13.3%	17.6%	11.0%	1.9%	12.2%	1.9%	1.6%	25.7%	7.9%	
	80～84歳 (n=464)	38.1%	17.9%	9.3%	31.0%	10.1%	20.5%	11.9%	3.0%	6.7%	1.9%	1.1%	19.4%	11.9%	
	85～89歳 (n=336)	28.3%	17.0%	8.3%	24.7%	6.5%	14.9%	8.3%	1.8%	4.2%	1.8%	3.6%	32.4%	12.2%	
90歳以上 (n=103)	18.4%	11.7%	6.8%	18.4%	6.8%	15.5%	8.7%	2.9%	5.8%	0.0%	3.9%	37.9%	12.6%		
性別 × 年齢	男性	65～74歳 (n=480)	41.7%	22.5%	18.5%	28.3%	20.6%	16.0%	8.5%	3.1%	14.8%	4.6%	1.7%	24.8%	2.9%
		75～84歳 (n=404)	36.1%	15.8%	14.9%	27.2%	13.1%	17.1%	11.4%	3.5%	14.1%	3.2%	1.7%	24.0%	7.4%
		85歳以上 (n=130)	27.7%	13.1%	14.6%	23.1%	6.2%	13.1%	7.7%	3.1%	4.6%	2.3%	1.5%	36.2%	9.2%
	女性	65～74歳 (n=580)	46.7%	29.5%	10.5%	37.9%	14.8%	19.7%	8.3%	1.9%	16.0%	2.1%	1.0%	15.0%	4.7%
		75～84歳 (n=605)	38.7%	17.0%	6.6%	35.9%	11.2%	20.5%	11.4%	1.8%	7.3%	1.2%	1.2%	21.3%	10.7%
		85歳以上 (n=293)	25.6%	17.7%	5.1%	23.2%	6.8%	16.4%	9.2%	1.7%	4.4%	1.0%	4.4%	33.8%	12.6%

## (2) 要支援・要介護認定者調査

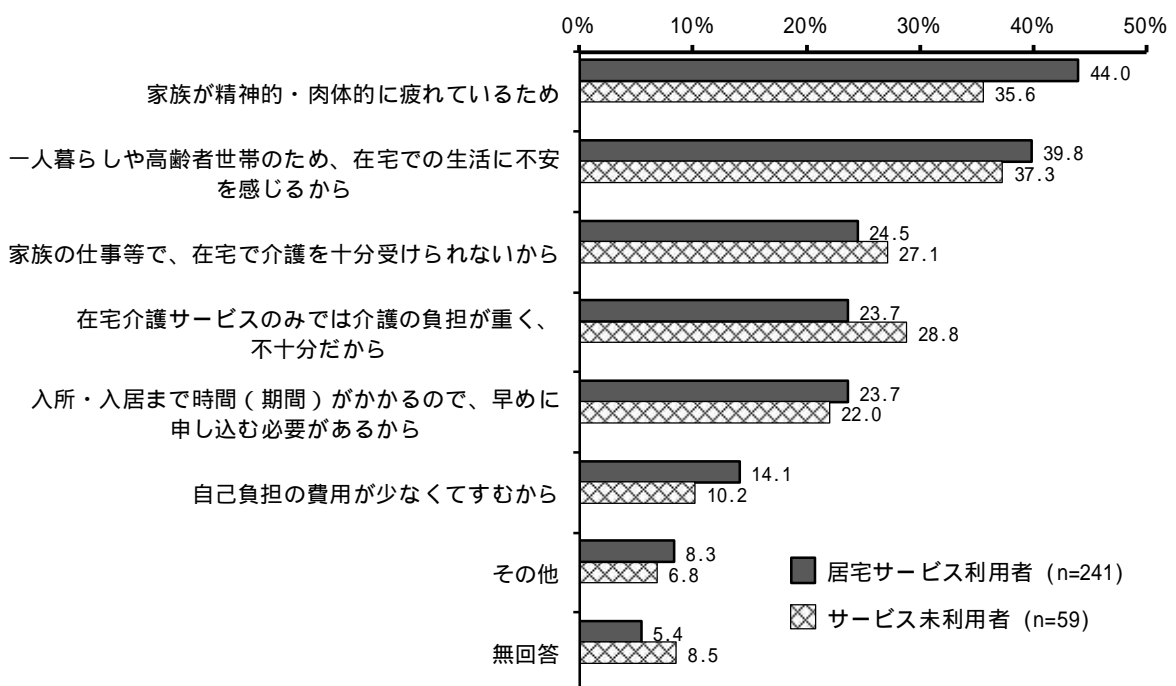
### 家族介護者の負担軽減など在宅で住み続けられる支援

施設等への入所意向・理由をたずねました。

- ・ 居宅サービス利用者では、「入所・入居は検討していない」が71.0%、「入所・入居を検討している」が13.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が6.4%となっている。
- ・ サービス未利用者では、「入所・入居は検討していない」が72.2%、「入所・入居を検討している」が9.8%となっている。



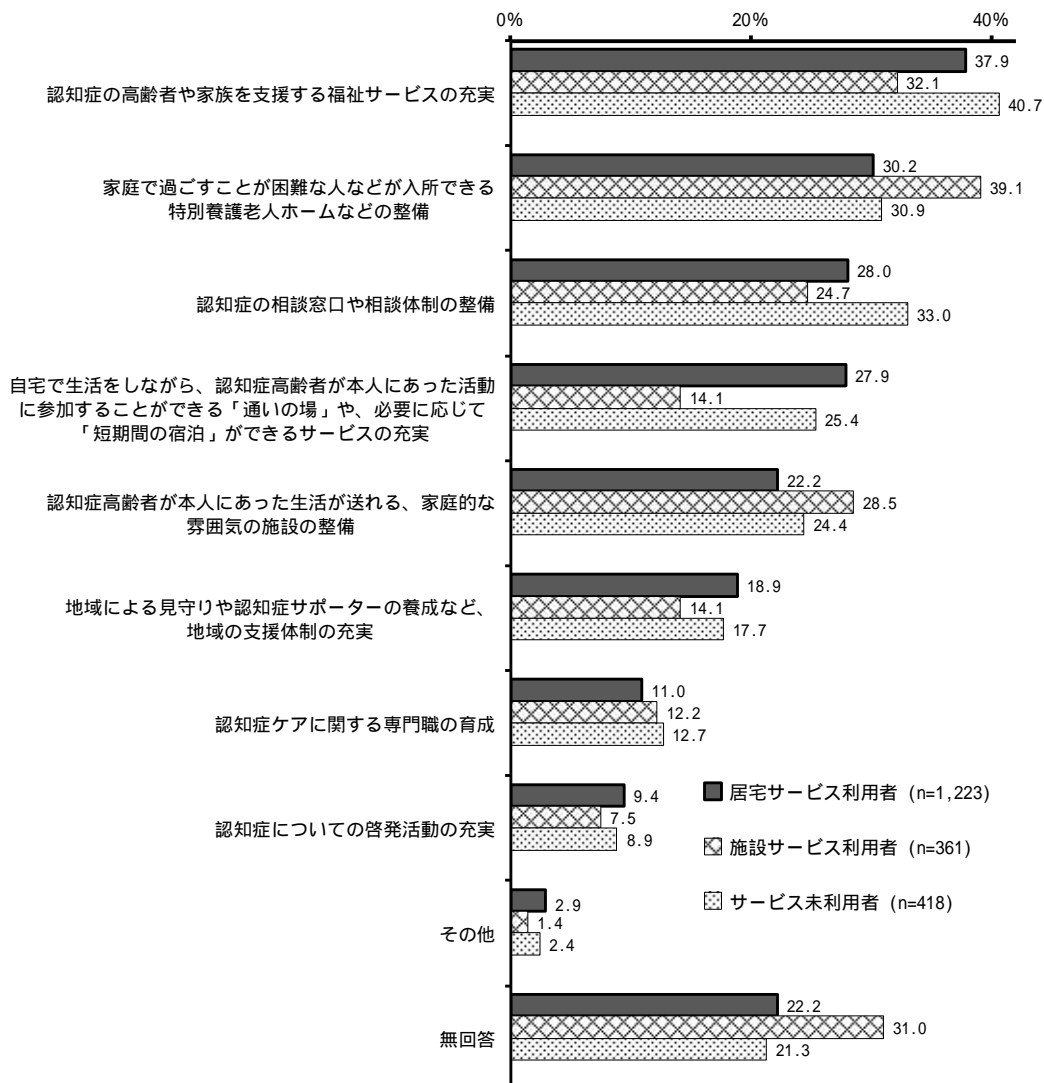
- ・ 入所・入居を意向する理由は、居宅サービス利用者では、「家族が精神的・肉体的に疲れているため」(44.0%)が最も多く、次いで「一人暮らしや高齢者世帯のため、在宅の生活に不安を感じるから」(39.8%)、「家族の仕事等で、在宅で介護を十分受けられないから」(24.5%)、「在宅介護サービスのみでは介護の負担が重く、不十分だから」「入所・入居まで時間(期間)がかかるので、早めに申し込む必要があるから」(ともに23.7%)と続いている。



## 認知症支援策

認知症になっても、住み慣れた地域で生活を送るために必要な支援をたずねました。

- ・ 居宅サービス利用者では、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(37.9%)が最も多く、次いで「家庭で過ごすことが困難な人などが入所できる特別養護老人ホームなどの整備」(30.2%)、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(28.0%)、「自宅で生活をしながら、認知症高齢者が本人にあった活動に参加することができる「通いの場」や、必要に応じて「短期間の宿泊」ができるサービスの充実」(27.9%)と続いている。
- ・ 施設サービス利用者では、「家庭で過ごすことが困難な人などが入所できる特別養護老人ホームなどの整備」(39.1%)が最も多く、次いで「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(32.1%)、「認知症高齢者が本人にあった生活が送れる、家庭的な雰囲気の施設の整備」(28.5%)、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(24.7%)と続いている。
- ・ サービス未利用者では、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(40.7%)が最も多く、次いで「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(33.0%)、「家庭で過ごすことが困難な人などが入所できる特別養護老人ホームなどの整備」(30.9%)と続いている。

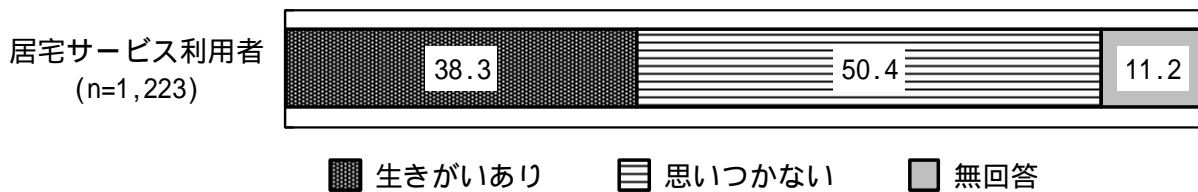


## 生きがいづくりを含めた重度化防止策

生きがいの有無や参加したい活動についてたずねました。

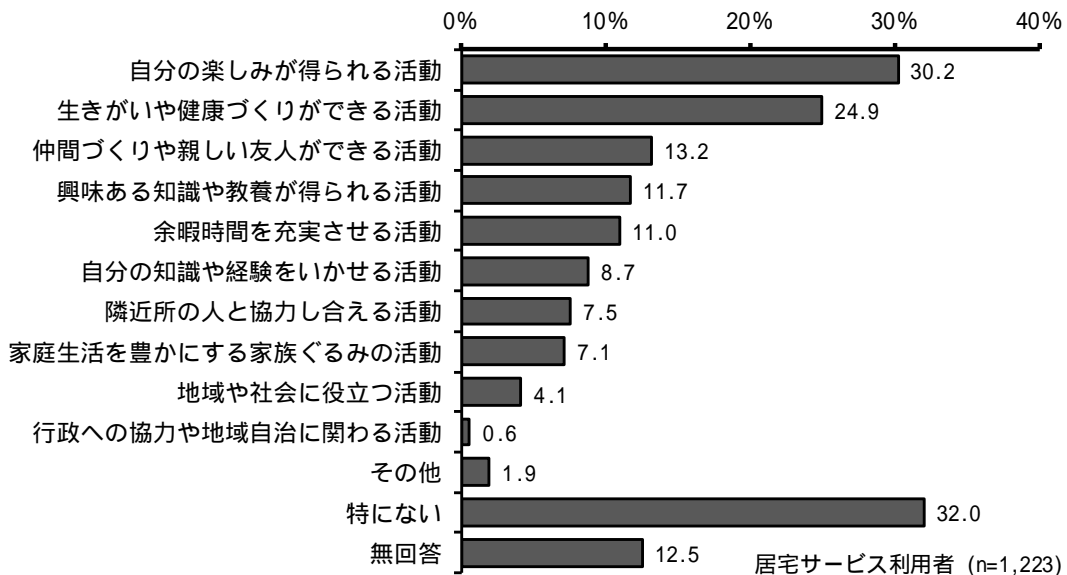
- ・ 「生きがいあり」の割合は、居宅サービス利用者では38.3%、施設サービス利用者では18.0%、サービス未利用者では38.8%となっている。
- ・ 居宅サービス利用者の「生きがいあり」の割合は、『要支援1』では52.2%、『要介護4』では14.7%と、『要介護5』を除き、介護度が低くなるほどが高くなっている。

(%)



		生きがいあり	思いつかない	無回答
居宅サービス利用者(全体) (n=1,223)		38.3%	50.4%	11.2%
要介護度	要支援1 (n=203)	52.2%	36.5%	11.3%
	要支援2 (n=208)	48.1%	39.4%	12.5%
	要介護1 (n=285)	38.2%	51.9%	9.8%
	要介護2 (n=216)	34.3%	57.4%	8.3%
	要介護3 (n=132)	29.5%	61.4%	9.1%
	要介護4 (n=68)	14.7%	75.0%	10.3%
	要介護5 (n=70)	31.4%	51.4%	17.1%

- ・ これから参加したい活動は、居宅サービス利用者では、「自分の楽しみが得られる活動」(30.2%)が最も多く、次いで「生きがいや健康づくりができる活動」(24.9%)、「仲間づくりや親しい友人ができる活動」(13.2%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(11.7%)、「余暇時間を充実させる活動」(11.0%)と続いている。一方、「特にない」は32.0%となっている。

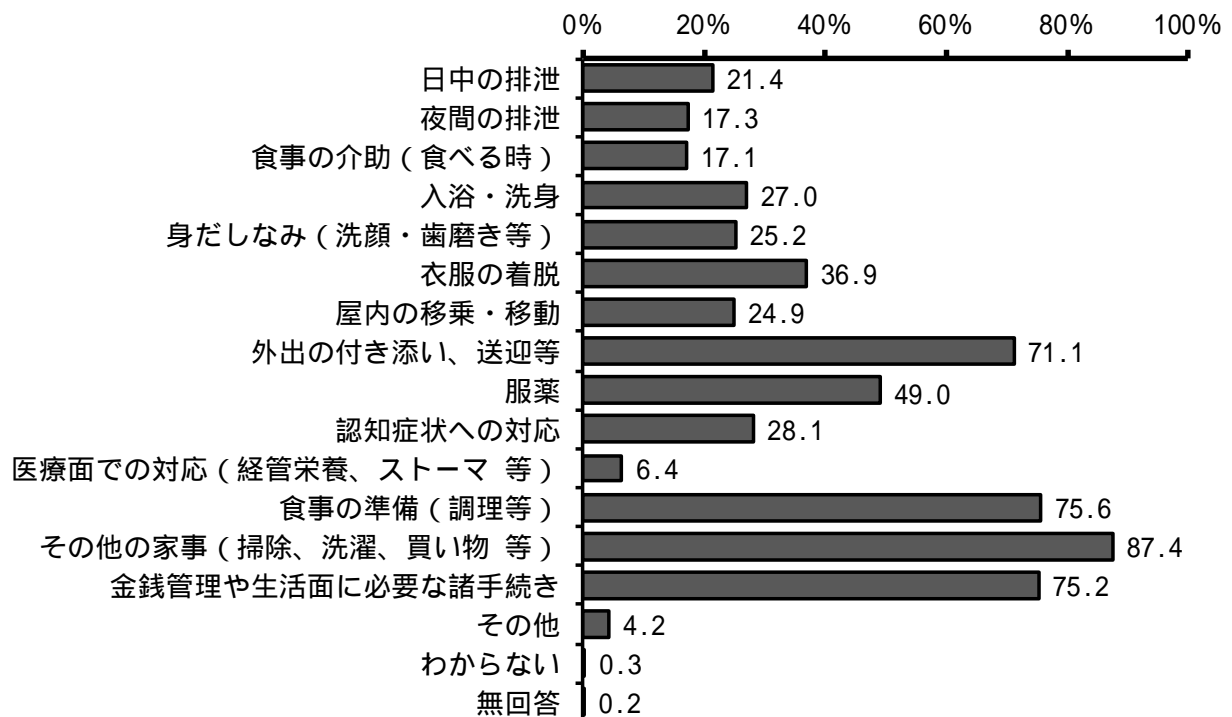


## (3) 在宅介護実態調査

## 主な介護者が行っている介護

現在、主な介護者の方が行っている介護等をたずねました。

- ・ 「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(87.4%)が最も多く、次いで「食事の準備(調理等)」(75.6%)及び「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(75.2%)、「外出の付き添い、送迎等」(71.1%)であり、それぞれ7割を超えている。

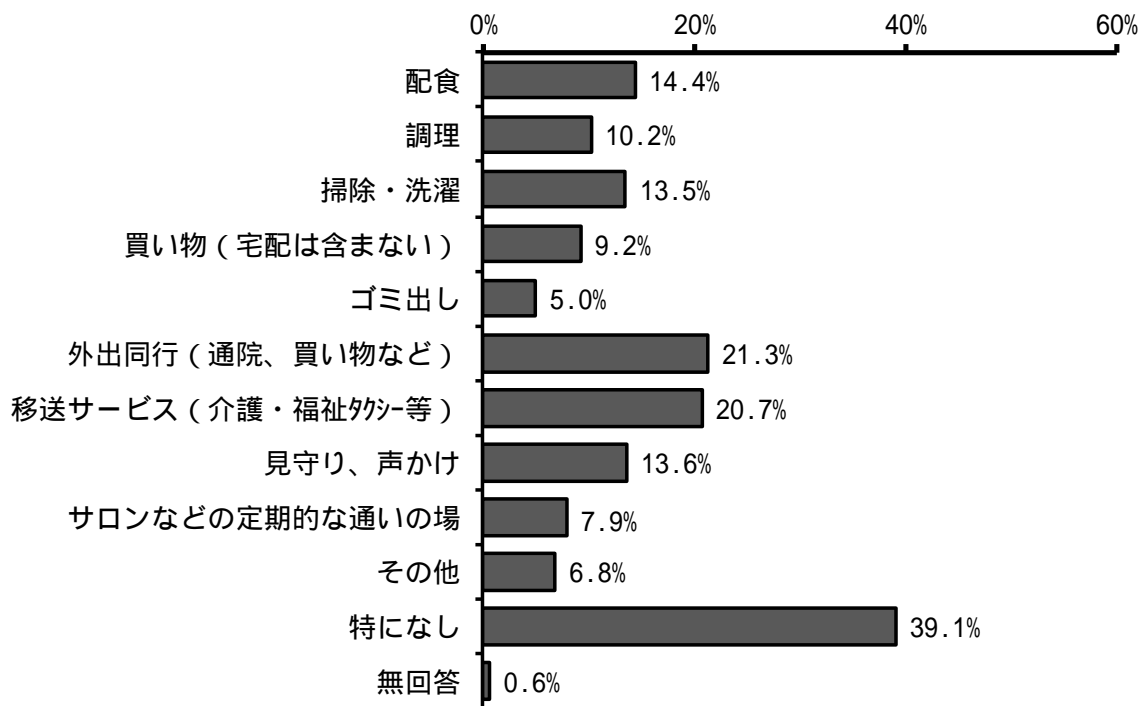


全体(n=626)

### 今後の在宅生活の継続に必要と感じる介護・サービス

在宅生活を継続していく上で必要だと感じる介護・サービスをたずねました。

- ・ 「外出同行（通院、買い物など）」（21.3%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（20.7%）が2割を超えている。なお、「特になし」は39.1%である。



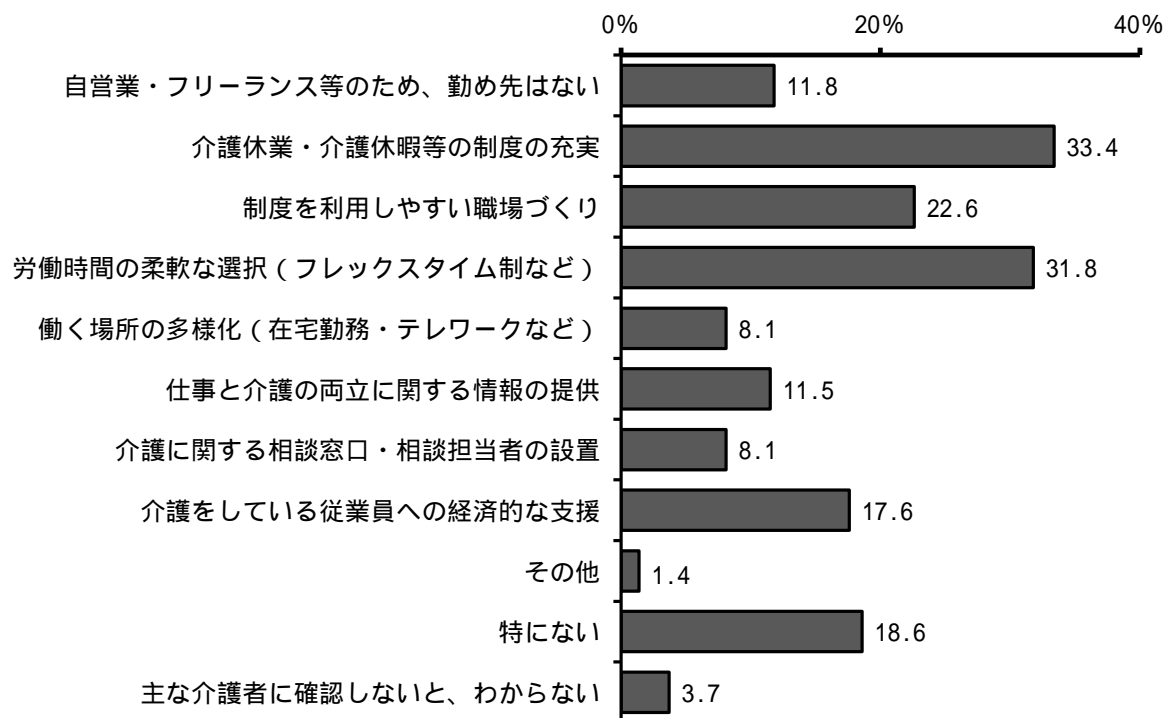
全体(n=675)



## 仕事と介護の両立にとって、効果的なこと

フルタイム、パートタイムで働く主な介護者が、  
勤め先からどのような支援策があれば、仕事と介護の両立に効果的かをたずねました。

- ・ 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が33.4%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(31.8%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(22.6%)である。



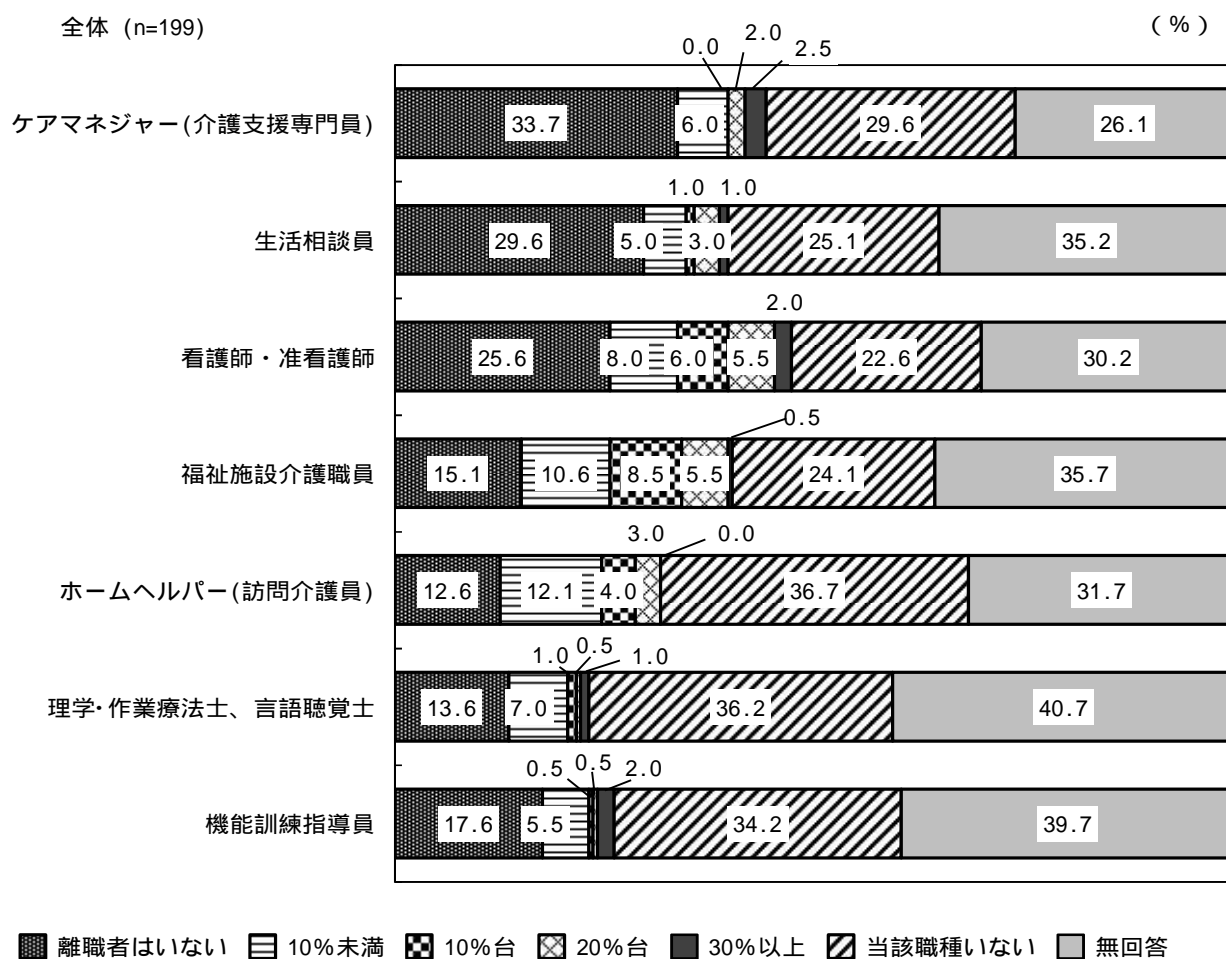
全体(n=296)

## (4) 介護保険サービス提供事業者調査

### 介護人材確保策

事業所における職員の離職状況についてたずねました。

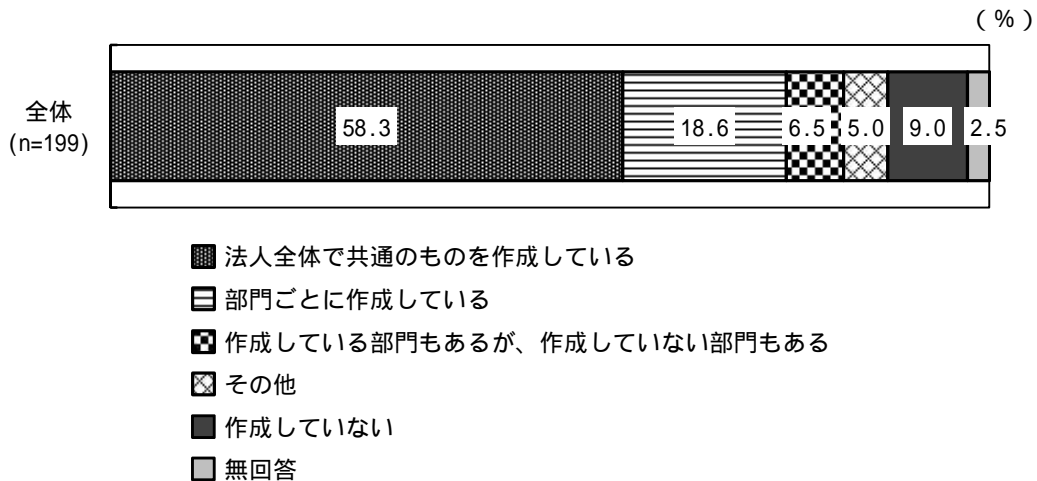
- ・ 昨年1年間(平成30年10月1日~令和元年9月30日)における「離職者はいない」の割合は、『ケアマネジャー(介護支援専門員)』(33.7%)が最も多く、次いで『生活相談員』(29.6%)、『看護師・准看護師』(25.6%)、『機能訓練指導員』(17.6%)、『福祉施設介護職員』(15.1%)と続いている。
- ・ 一方、離職率が10%以上(「10%台」「20%台」「30%以上」を合わせたもの)の割合は、『福祉施設介護職員』(14.5%)が最も多く、次いで『看護師・准看護師』(13.5%)、『ホームヘルパー(訪問介護員)』(7.0%)、『生活指導員』(5.0%)となっている。



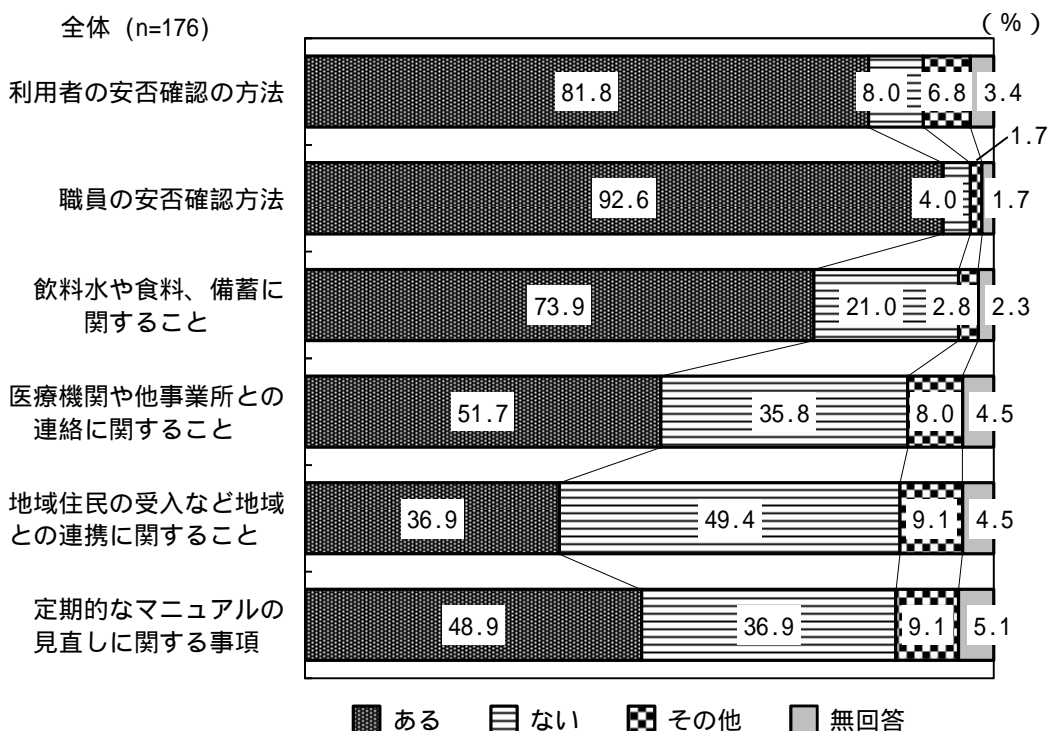
## 災害対策

災害対策の取組状況についてたずねました。

- ・ 災害時のマニュアル作成については、「法人全体で共通のものを作成している」(58.3%)が最も多く、次いで「部門ごとに作成している」(18.6%)、「作成している部門もあるが、作成していない部門もある」(6.5%)と続いている。
- ・ 一方、「作成していない」は9.0%となっている。



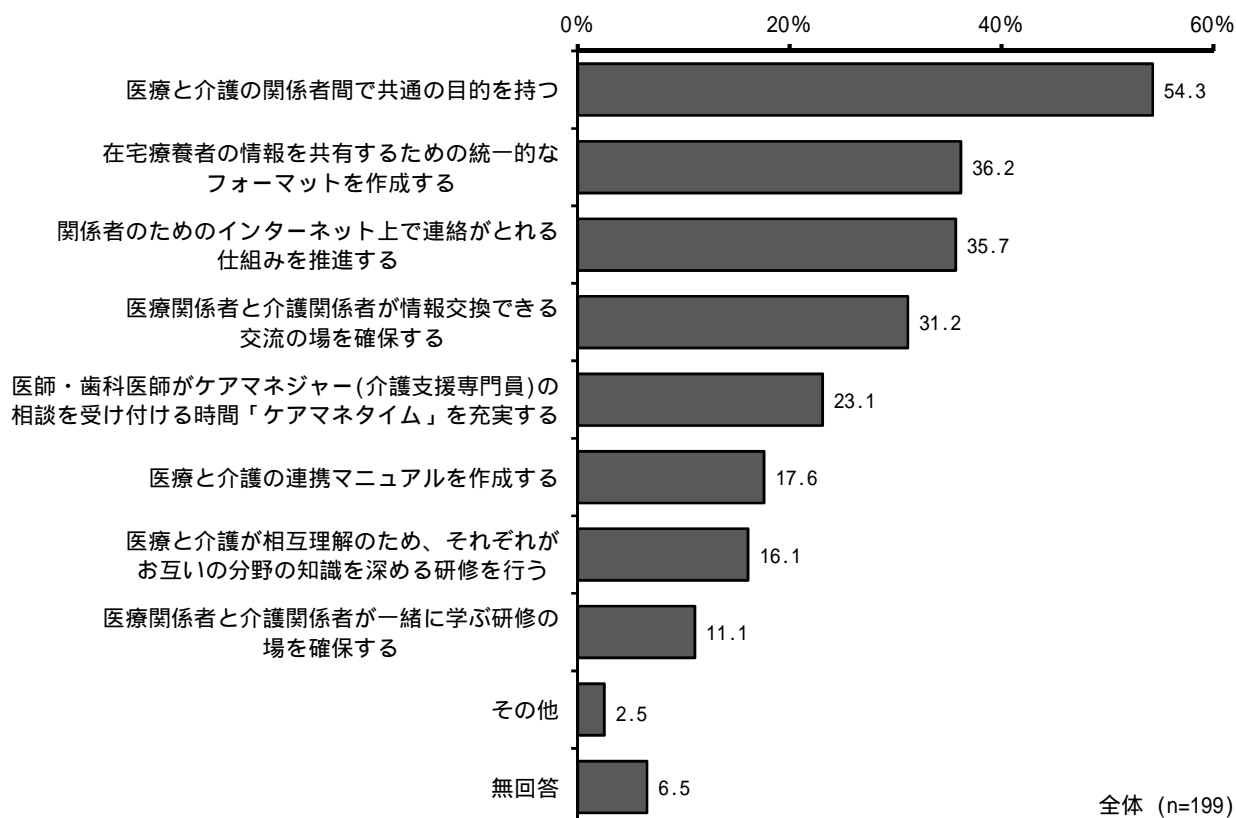
- ・ マニュアルの内容に含まれていることは、『 職員の安否確認方法』(92.6%)が最も多く、『 利用者の安否確認の方法』(81.8%)、『 飲料水や食料、備蓄に関すること』(73.9%)、『 医療機関や他事業所との連絡に関すること』(51.7%)、『 定期的なマニュアルの見直しに関する事項』(48.9%)と続いている。



## 医療と介護の連携策

医療と介護の連携について必要と思うことをたずねました。

- ・ 「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」(54.3%)が最も多く、次いで「在宅療養者の情報を共有するための統一フォーマットを作成する」(36.2%)、「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」(35.7%)、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」(31.2%)と続いている。

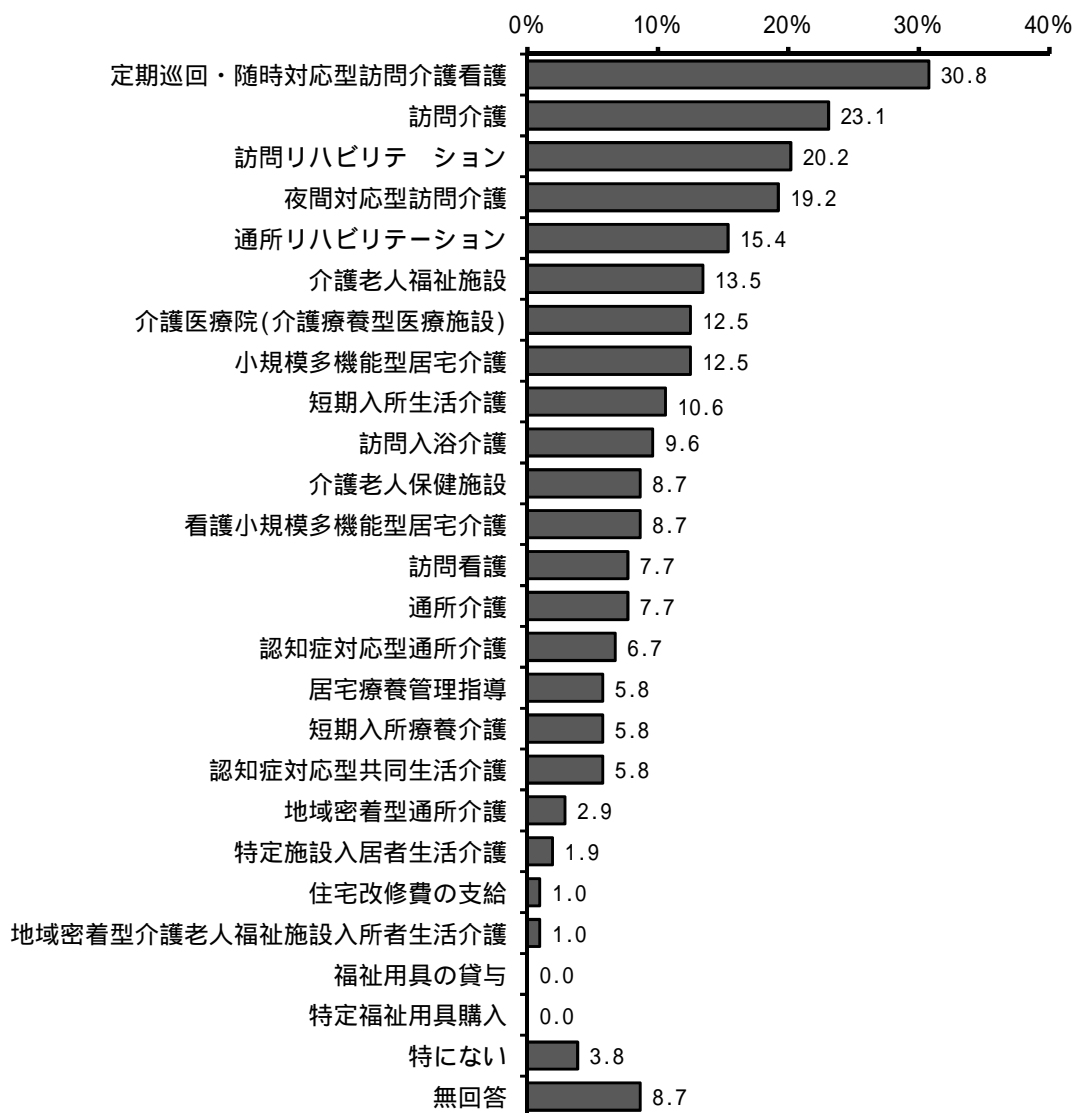


## (5) 介護支援専門員調査

### サービスの提供体制

事業所数もしくは定員など、量的に不足していると感じるサービスについてたずねました。

- ・ 「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(30.8%)が最も多く、次いで「訪問介護」(23.1%)、「訪問リハビリテーション」(20.2%)、「夜間対応型訪問介護」(19.2%)と続いている。
- ・ 一方、「特にない」は3.8%となっている。

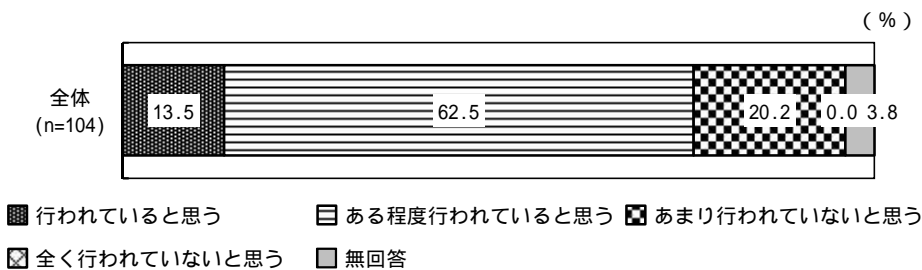


全体 (n=104)

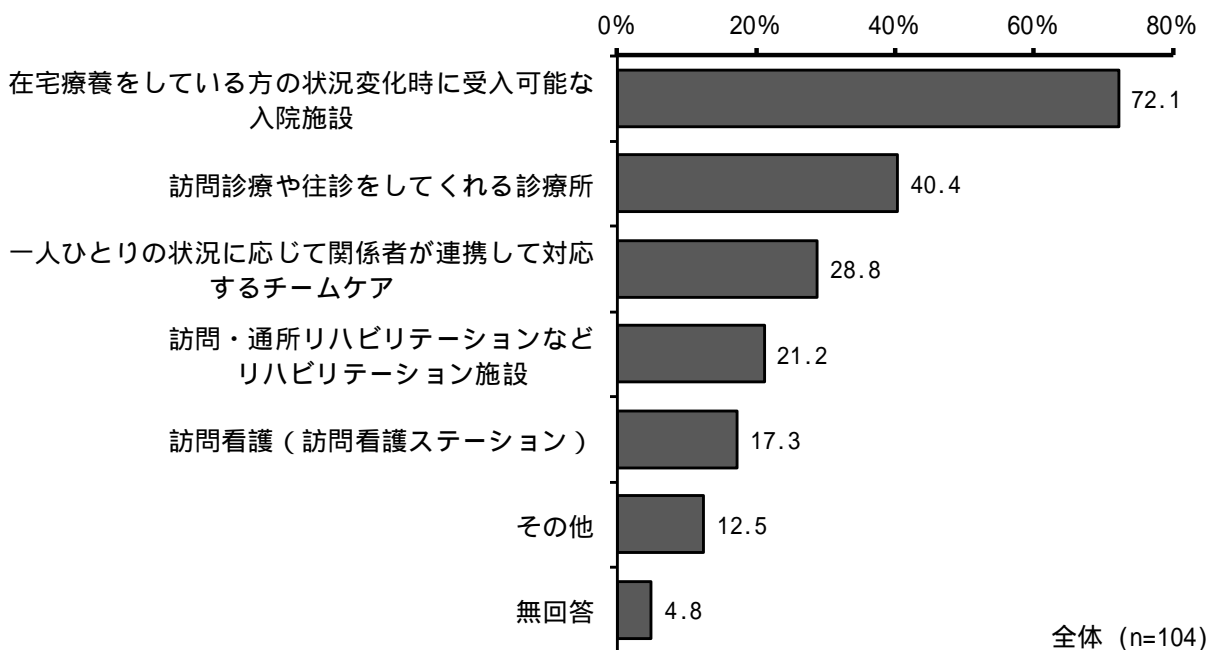
## 在宅療養体制

急変時の対応や在宅療養を進めていく上で不足している機能についてたずねました。

- 在宅療養している高齢者の急変時に医療機関へのスムーズな移行が行われていると思うかについては、「行われていると思う」(13.5%)、「ある程度行われていると思う」(62.5%)を合わせた割合は76.0%となっている。一方、「あまり行われていないと思う」(20.2%)、「全く行われていないと思う」(0.0%)を合わせた割合は20.2%となっている。
- 「あまり行われていないと思う」割合は、主任ケアマネが「ない」(16.3%)よりも「ある」(36.4%)ほうが高くなっている。



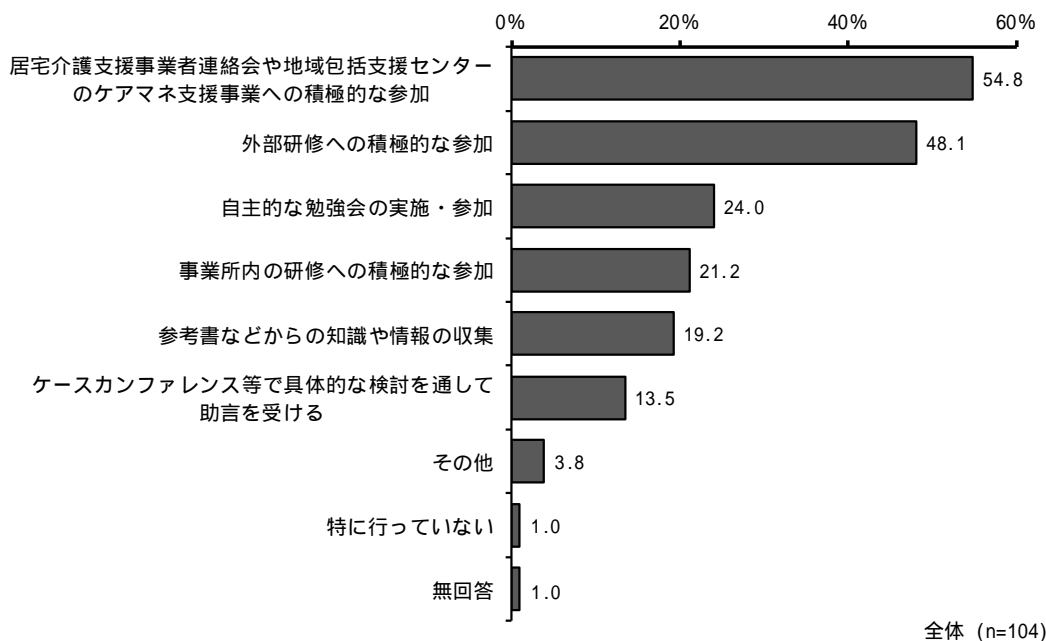
- 高齢者の在宅療養を進めていくうえで不足している機能は、「在宅療養をしている方の状況変化時に受入可能な入院施設」(72.1%)が最も多く、次いで「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(40.4%)、「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」(28.8%)、「訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設」(21.2%)と続いている。



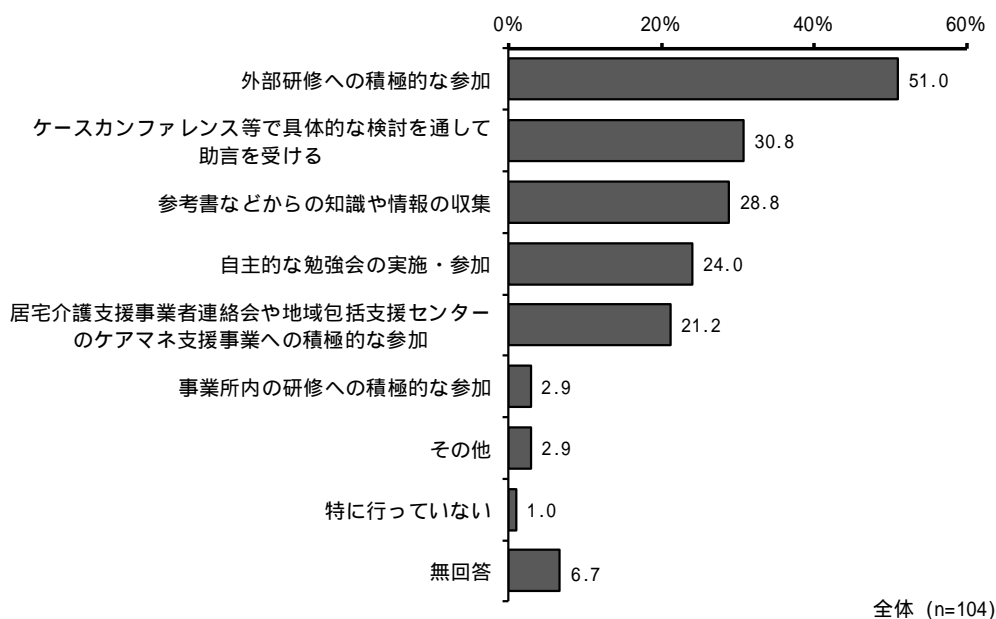
## ケアマネジャーの質の向上策

ケアマネジャー業務のレベルアップの取組についてたずねました。

- 現在行っている取組は、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」(54.8%)が最も多く、次いで「外部研修への積極的な参加」(48.1%)、「自主的な勉強会の実施・参加」(24.0%)、「事業所内の研修への積極的な参加」(21.2%)、「参考書などからの知識や情報の収集」(19.2%)と続いている。



- 今後行いたい取組は、「外部研修への積極的な参加」(51.0%)が最も多く、次いで「ケースカンファレンス等で具体的な検討を通して助言を受ける」(30.8%)、「参考書などからの知識や情報の収集」(28.8%)、「自主的な勉強会の実施・参加」(24.0%)、「居宅介護支援事業者連絡会や地域包括支援センターのケアマネ支援事業への積極的な参加」(21.2%)と続いている。

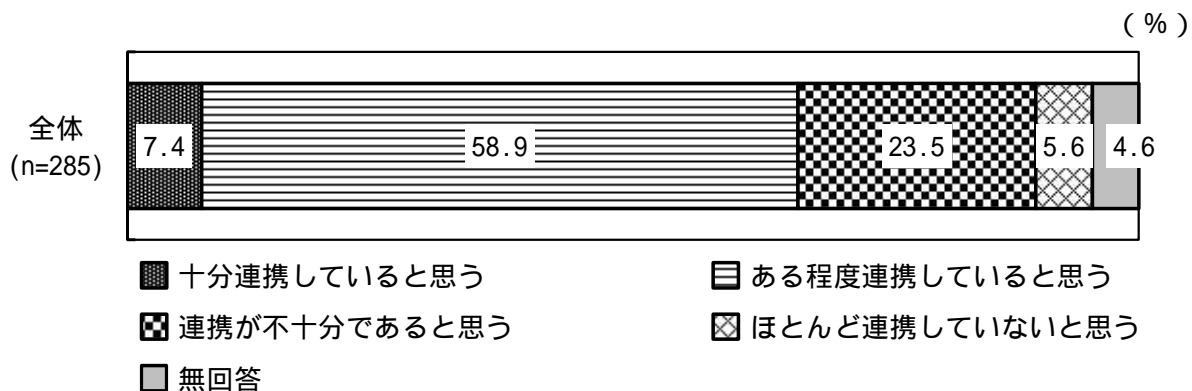


(6) 医療機関調査

医療と介護の連携の状況

在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況についてたずねました。

- ・ 「十分連携していると思う」(7.4%)、「ある程度連携していると思う」(58.9%)を合わせた割合は66.3%となっている。一方、「連携が不十分であると思う」(23.5%)、「ほとんど連携していないと思う」(5.6%)を合わせた割合は29.1%となっている。
- ・ 『病院の退院支援担当者』では、「ほとんど連携できていないと思う」が25.0%となっている。



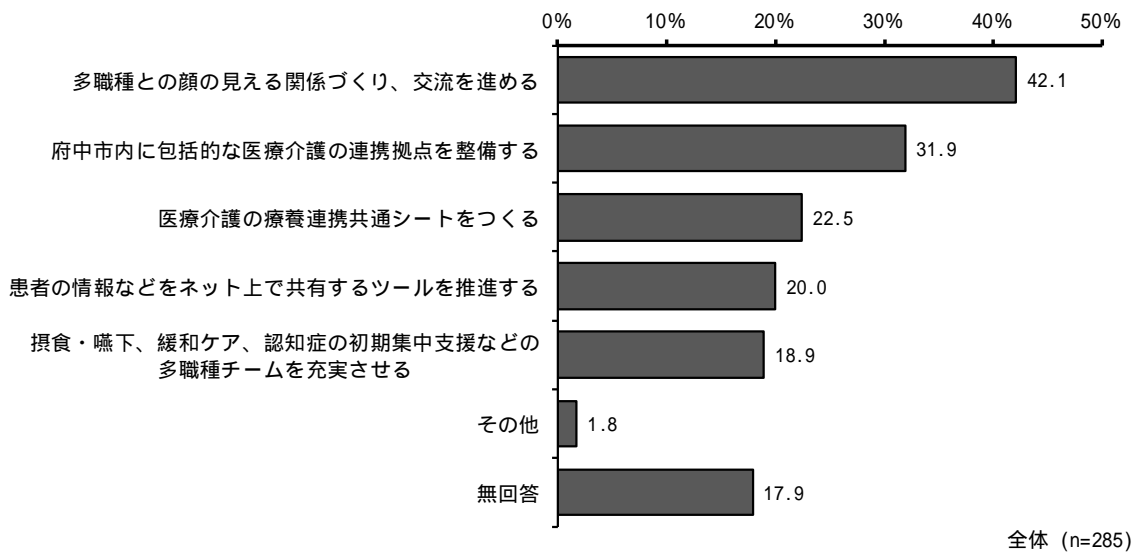
		十分連携していると思う	ある程度連携していると思う	連携が不十分であると思う	ほとんど連携していないと思う	無回答	
全 体	(n=285)	7.4%	58.9%	23.5%	5.6%	4.6%	
所属医療機関 (6種)	一般診療所(在宅支援・届出有)	(n=13)	15.4%	53.8%	23.1%	7.7%	0.0%
	一般診療所(在宅支援・届出無)	(n=86)	10.5%	58.1%	20.9%	4.7%	5.8%
	歯科診療所	(n=80)	11.3%	63.8%	17.5%	3.8%	3.8%
	薬局	(n=82)	0.0%	52.4%	34.1%	7.3%	6.1%
	訪問看護ステーション	(n=15)	6.7%	73.3%	20.0%	0.0%	0.0%
	病院の退院支援担当者	(n=8)	0.0%	62.5%	12.5%	25.0%	0.0%
職種 (6種)	医師	(n=95)	11.6%	55.8%	21.1%	6.3%	5.3%
	歯科医師	(n=81)	11.1%	64.2%	17.3%	3.7%	3.7%
	薬剤師	(n=83)	0.0%	51.8%	34.9%	7.2%	6.0%
	看護師	(n=9)	11.1%	88.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	訪問看護師	(n=6)	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	医療ソーシャルワーカー	(n=7)	0.0%	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%



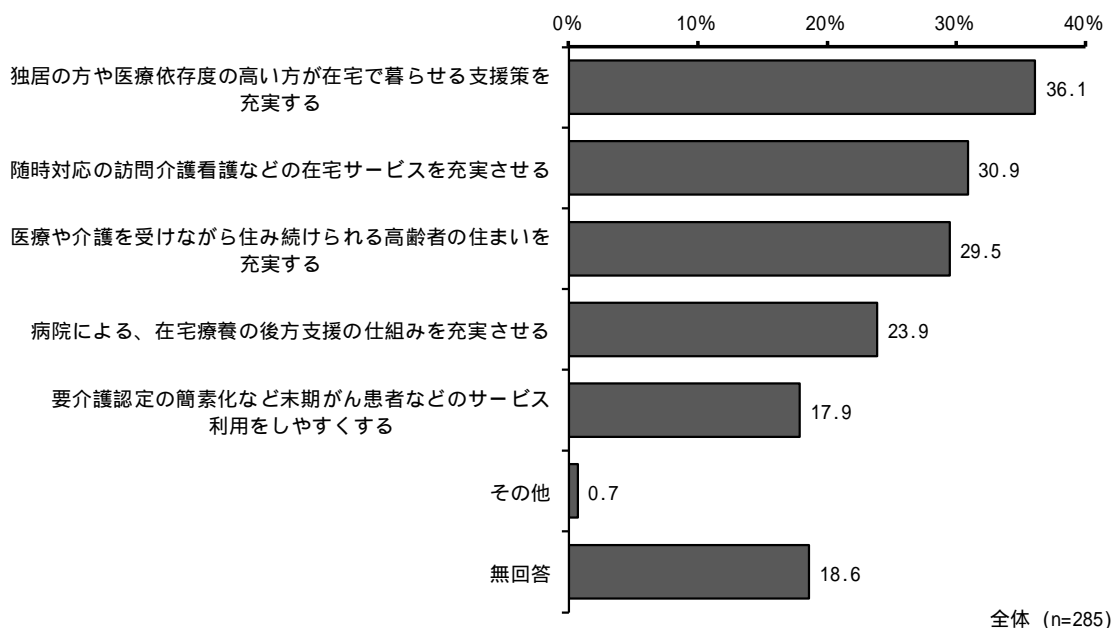
## 地域包括ケアの構築に向けて

「医療と介護の連携のための仕組みづくり」や「サービス・基盤整備」についてたずねました。

- 医療と介護の連携の仕組みづくりについては、「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」(42.1%)が最も多く、次いで「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」(31.9%)、「医療介護の療養連携共通シートをつくる」(22.5%)、「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」(20.0%)、「摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる」(18.9%)と続いている。



- サービス・基盤整備については、「独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実させる」(36.1%)が最も多く、次いで「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」(30.9%)、「医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実させる」(29.5%)、「病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる」(23.9%)、「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすいとする」(17.9%)と続いている。



### 3 障害者福祉分野調査

#### (1) 障害等のある人への調査

#### 現在の仕事

現在どのような仕事をしているかたずねました。

- ・ 身体障害者は18～39歳で52.4%、40～64歳で60.4%が仕事をしている。18～39歳は33.3%、40～64歳は40.6%が「一般就労」である。
- ・ 知的障害者は18～39歳で79.9%、40～64歳で67.5%が仕事をしている。18～39歳と40～64歳は「障害者施設に通所で働いている」(18～39歳：41.1%、40～64歳：42.5%)が最も多く、次いで「一般就労」(18～39歳：22.6%、40～64歳：12.5%)が多い。
- ・ 精神障害者は18～39歳で64.0%、40～64歳で47.4%が仕事をしている。18～39歳は「障害者施設に通所で働いている」(24.0%)が最も多く、次いで「一般就労」(18.4%)、「パート・アルバイト・日雇い」(13.6%)が続いている。40～64歳は「一般就労」(17.9%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い」(12.8%)、「障害者施設に通所で働いている」(10.3%)が続いている。40～64歳は、他の障害に比べ、仕事をしている人が少ない。
- ・ 難病患者は、18～39歳で78.8%、40～64歳で67.9%が仕事をしている。18～39歳は「一般就労」(45.5%)が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い」(24.2%)が続いている。40～64歳は「一般就労」(51.7%)が最も多く、他は1割に満たない。

(%)

			仕事をしている人							仕事はしていない	無回答	仕事をしている人(再掲)
			一般就労	障害者施設に通所で働いている	パート・アルバイト・日雇い	自営業者	家業手伝い	在宅ワーク	その他			
全体		(N=1,419)	17.3	8.7	7.8	2.6	1.2	0.6	2.9	55.5	3.4	41.1
障害等の種類 × 年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	33.3	0.0	9.5	0.0	0.0	4.8	4.8	47.6	0.0	52.4
		40～64歳 (n=192)	40.6	1.6	8.9	5.2	1.0	0.5	2.6	36.5	3.1	60.4
		65歳以上 (n=533)	3.2	0.6	4.5	3.0	1.3	0.6	1.9	81.5	3.4	15.1
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	22.6	41.1	8.9	0.0	0.8	0.0	6.5	16.9	3.2	79.9
		40～64歳 (n=40)	12.5	42.5	10.0	2.5	0.0	0.0	0.0	25.0	7.5	67.5
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1	11.1
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	18.4	24.0	13.6	0.8	1.6	0.0	5.6	35.2	0.8	64.0
		40～64歳 (n=156)	17.9	10.3	12.8	1.3	1.9	0.6	2.6	50.0	2.6	47.4
		65歳以上 (n=21)	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	71.4	9.5	19.1
	難病患者	18～39歳 (n=33)	45.5	0.0	24.2	0.0	3.0	6.1	0.0	21.2	0.0	78.8
		40～64歳 (n=56)	51.7	0.0	5.4	5.4	1.8	0.0	3.6	32.1	0.0	67.9
		65歳以上 (n=35)	8.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	85.6	2.9	11.5

## 障害等のある人が働くために希望すること

障害等のある人が働くためにどのようなことを希望するかたずねました。

- ・ 身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」(33.9%)、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」(57.1%)、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」(精神: 60.2%、難病: 61.6%)が最も多い。

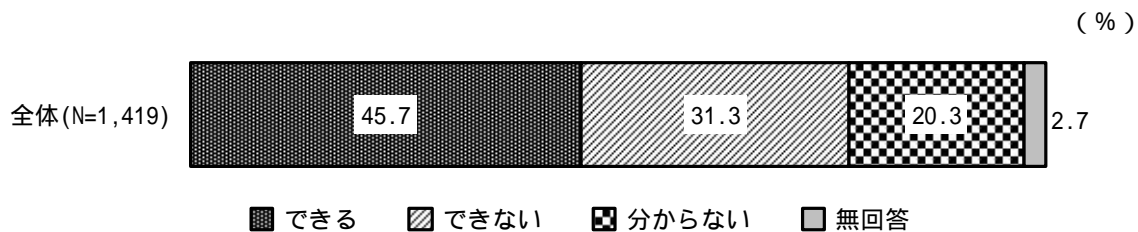
	全体 (N=1,419)	身体障害者 (n=761)	知的障害者 (n=175)	精神障害者 (n=304)	難病患者 (n=125)
必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること	40.9	32.3	36.6	60.2	61.6
自分の家の近くに働く場所があること	40.6	33.9	48.0	53.6	47.2
障害等のある人に適した仕事が開拓されること	35.5	26.9	57.1	49.3	31.2
事業主や職場の人たちが、障害等のある人の雇用について充分理解していること	31.8	22.6	44.6	48.0	36.0
事業主や職場の人たちが障害特性について理解していること	30.4	21.6	47.4	46.1	30.4
就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること	27.8	18.7	40.0	43.1	35.2
賃金格差がないこと	22.6	17.0	27.4	32.9	30.4
職場の施設や設備が障害等のある人にも利用できるように配慮されていること	21.8	19.3	27.4	25.3	24.0
民間企業がもっと積極的に雇用すること	21.1	17.3	25.1	28.9	25.6
同じような障害等のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	15.5	8.9	27.4	25.3	14.4
企業に就職するための訓練を受けたり、求職活動を手伝ってもらうこと	15.2	9.2	22.9	28.0	14.4
職業訓練所など、技能・知識の習得を援助する施設が充実していること	14.7	10.0	25.1	20.7	16.8
介助者と一緒に働けること	8.6	5.7	16.0	11.2	10.4
自営業を希望する人への支援を充実すること	8.0	7.0	4.6	12.5	11.2
その他	4.0	4.6	2.3	5.3	1.6
分からない	16.2	21.0	9.1	8.2	10.4
無回答	15.7	21.0	9.7	5.9	8.8

複数回答

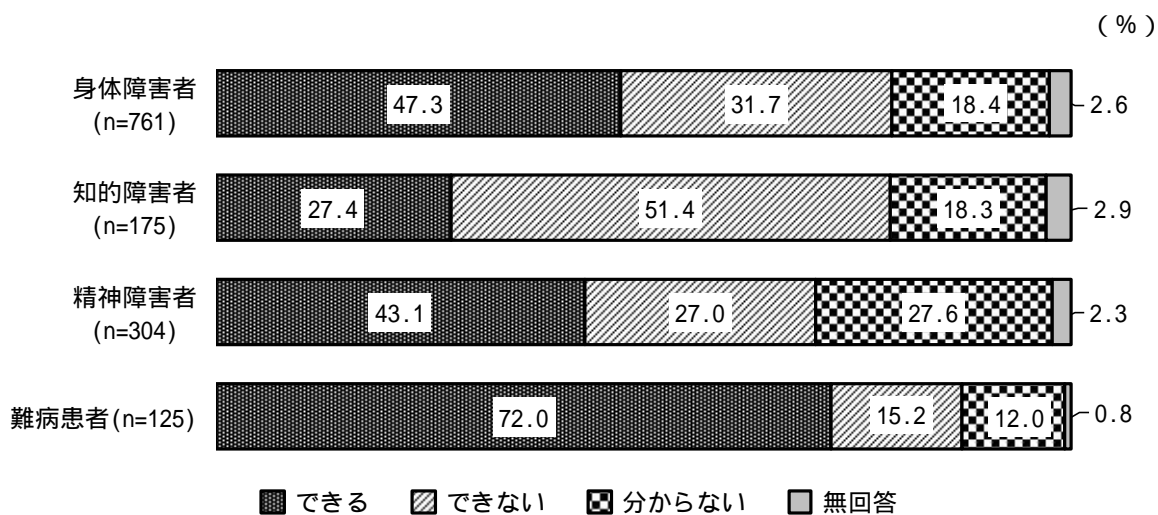
### 緊急時の単独避難

地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することができるかたずねました。

- 地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は31.3%である。



- 知的障害者は「できない」と回答した人が51.4%と半数を超えている。

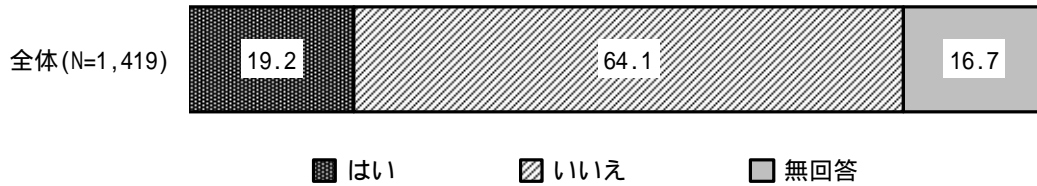


## 府中市民のノーマライゼーションの理解

共生社会（ノーマライゼーション）が府中市民に十分理解されているかたずねました。

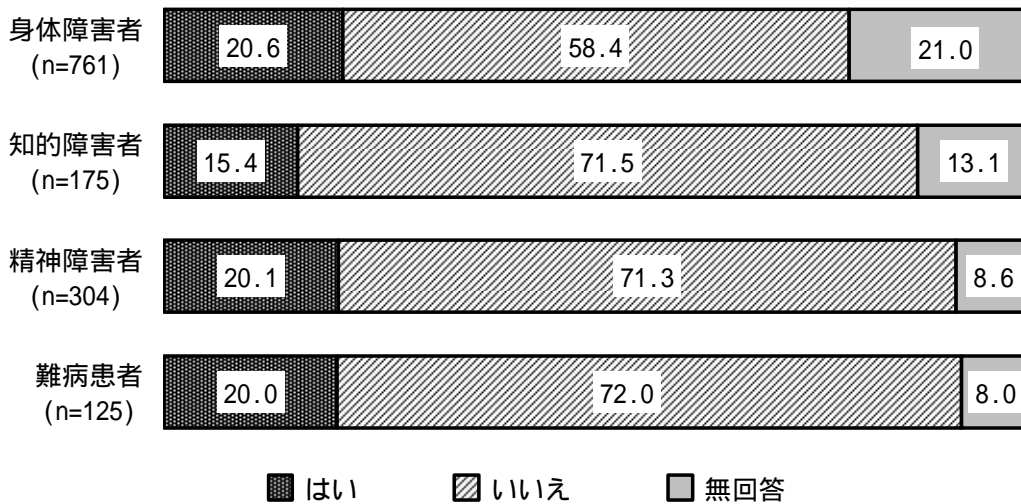
- 共生社会（ノーマライゼーション）が理解されている「はい」の割合が19.2%、理解されていない「いいえ」の割合が64.1%である。

(%)



- 障害等の種類別では、知的障害者、精神障害者、難病患者は「いいえ」(知的：71.5%、精神：71.3%、難病：72.0%)が全体より5ポイント以上高い。

(%)



## 必要とする合理的配慮

役所、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を必要としているかたずねました。

- ・ 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(身体：48.1%、知的：52.0%、精神：48.4%、難病：52.8%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など)」(26.3%)、知的障害者は「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる」(40.0%)、精神障害者は「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(39.1%)、難病患者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するために工夫をする」(32.0%)となっている。

カテゴリー名	(%)				
	全体 (N=1,419)	身体障害者 (n=761)	知的障害者 (n=175)	精神障害者 (n=304)	難病患者 (n=125)
困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する	48.6	48.1	52.0	48.4	52.8
障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする	27.4	22.7	36.0	35.5	32.0
ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける	27.0	23.8	38.3	32.2	22.4
疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける	26.9	20.5	38.9	39.1	25.6
障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる	25.5	21.6	40.0	29.9	24.0
移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など)	24.3	26.3	21.1	20.7	27.2
障害等のある人の歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、希望を聞く	22.5	25.4	17.7	19.1	23.2
伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける	19.5	16.7	24.6	24.7	17.6
車いすの利用者が利用しやすいようカウンターの高さに配慮する	19.1	21.8	14.9	15.8	18.4
障害等の特性により、頻繁に離席の必要がある場合に、会場の座席位置を扉付近にする	17.5	16.8	18.3	19.1	21.6
物の位置を分かりやすく伝える	17.3	16.2	24.0	17.8	15.2
収納を手伝う(手の届きにくいところにあるものをとる、しまうなど)	12.9	12.1	14.3	11.8	17.6
音や肌触り、室温など感覚面の調整を行う	11.2	8.0	16.6	16.8	12.0
漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする	11.1	7.6	21.7	15.5	9.6
その他	3.1	3.2	2.9	3.9	2.4
分からない	13.4	13.0	12.0	13.8	12.8
無回答	18.9	21.9	16.0	13.2	12.0

複数回答

## 充実を望む施策

障害等のある人の施策について、市に充実を望む施策をたずねました。

- ・ 身体障害者は「各種相談事業を充実すること」(41.1%)、知的障害者は「グループホームを充実すること」(52.6%)、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」(52.6%)、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(50.4%)が最も多い。

カテゴリー名	(%)				
	全体 (N=1,419)	身体障害者 (n=761)	知的障害者 (n=175)	精神障害者 (n=304)	難病患者 (n=125)
各種相談事業を充実すること	42.4	41.1	41.7	44.1	48.8
障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	39.4	34.4	43.4	48.7	50.4
ホームヘルパーの派遣など 在宅生活支援サービスを充実すること	31.2	35.5	25.1	21.4	37.6
障害等のある人や子どもが 受診しやすい医療体制を充実すること	29.7	28.9	26.3	31.6	36.0
障害等のある人が住宅を 確保しやすくなるよう図ること	29.1	24.8	24.6	42.4	33.6
利用できる通所施設を整備すること	26.6	24.8	29.7	28.3	25.6
外出時の移動支援サービスを 充実すること	25.4	29.8	25.1	15.8	25.6
障害等のある人の自立生活をめざした 取り組みが家庭・学校・地域で行われること	24.0	21.9	25.7	27.0	30.4
障害等のある人や子どもに対する 暴力や差別をなくすこと	22.6	18.7	26.3	28.3	29.6
精神状態の不安定に対する支援の充実	22.1	12.9	13.7	52.6	21.6
補装具・日常生活用具給付事業を 充実すること	19.6	27.9	9.1	8.2	12.8
グループホームを充実すること	18.0	11.3	52.6	20.1	7.2
視覚・聴覚などの障害に配慮した 情報提供を充実すること	15.5	21.4	3.4	9.2	15.2
権利擁護事業や成年後見制度の 取り組みの充実を図ること	13.0	10.2	19.4	16.1	13.6
障害等のある人や子どものための 短期入所を充実すること	12.2	10.4	24.0	11.2	8.8
その他	3.2	3.5	2.3	3.3	1.6
分からない	6.8	7.8	5.7	4.6	7.2
無回答	8.7	10.0	6.3	5.3	7.2

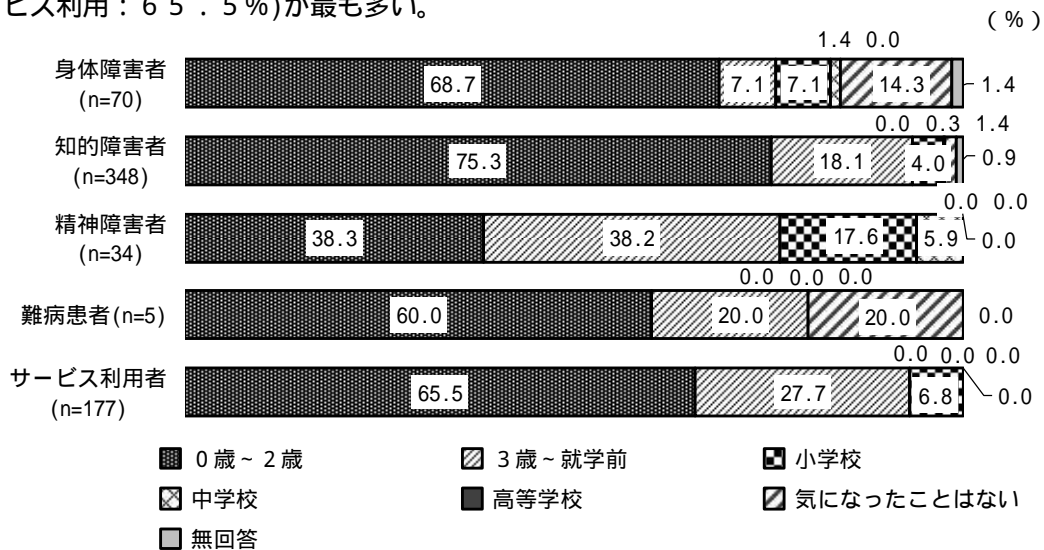
複数回答

## (2) 子どもの育ちや発達に関する調査

### 子どもの育ちや発達で初めて気になった時期

お子さんの育ちや発達について、初めて気になった時期についてたずねました。

- 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「0歳～2歳」(身体：68.7%、知的：75.3%、精神：38.3%、難病：60.0%、サービス利用：65.5%)が最も多い。



### 子どもの育ちや発達についての相談先

お子さんの育ちや発達について、相談した人・相談機関等への相談状況をたずねました。

- 相談先は、「家族・親族」(身体：75.7%、知的：73.9%、精神：67.6%、難病：80.0%、サービス利用：80.2%)が最も多い。精神障害者は「保育園・幼稚園・学校」(67.6%)、難病患者は「医療機関(東京都立の療育機関を除く)」(80.0%)も同率1位である。

		家族・親族	保育園・幼稚園・学校	医療機関(東京都立の療育機関を除く)	友人・知人	子ども発達支援センターあゆの子	お子さんと同じ状況の子がいる人	東京都立の療育機関	市役所(保健センター等も含む)	児童相談所
全体	(N=651)	75.4	57.8	48.7	47.2	46.9	43.2	43.2	40.1	18.1
障害の種類										
	身体障害者 (n=70)	75.7	38.6	60.0	42.9	10.0	24.3	35.7	30.0	0.0
	知的障害者 (n=348)	73.9	55.2	46.6	44.3	49.1	45.1	51.1	38.5	26.1
	精神障害者 (n=34)	67.6	67.6	58.8	55.9	38.2	38.2	29.4	38.2	35.3
	難病患者 (n=5)	80.0	60.0	80.0	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	80.2	68.4	46.9	53.1	59.9	48.0	36.2	46.3	6.2

		子ども家庭支援センター	地域生活支援センター	東京都の保健所	民生・児童委員	児童館	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人(再掲)
全体	(N=651)	15.1	6.1	4.5	2.2	1.8	11.2	0.9	0.2	98.9
障害の種類										
	身体障害者 (n=70)	7.1	0.0	2.9	2.9	0.0	7.1	1.4	1.4	97.1
	知的障害者 (n=348)	11.8	7.2	5.2	1.7	1.7	8.6	0.9	0.0	99.1
	精神障害者 (n=34)	20.6	5.9	5.9	2.9	0.0	26.5	0.0	0.0	100.0
	難病患者 (n=5)	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	23.2	5.6	3.4	1.7	2.3	14.7	0.6	0.0	99.4



## 災害時の不安や心配ごと

災害時に困ること・不安なことをたずねました。

- ・ 身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(61.4%)、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(知的：75.0%、精神：73.5%、難病：40.0%、サービス利用：62.7%)が最も多い。
- ・ 2番目に多い項目は、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」(45.7%)、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」(知的：64.4%：精神：67.6%、サービス利用：36.2%)である。

(%)

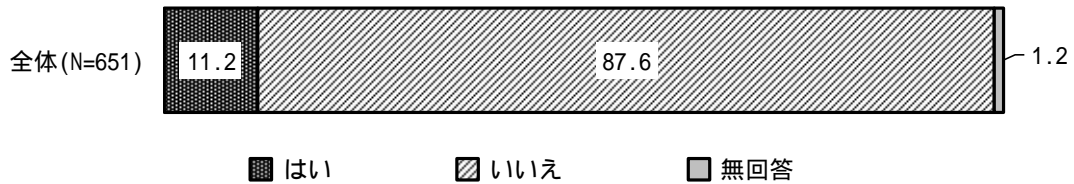
	全体 (N=651)	身体障害者 (n=70)	知的障害者 (n=348)	精神障害者 (n=34)	難病患者 (n=5)	サービス 利用者 (n=177)
大勢の人の中での避難所生活に不安がある	67.7	45.7	75.0	73.5	40.0	62.7
障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない	55.0	61.4	64.4	67.6	0.0	36.2
お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安	44.1	40.0	50.3	50.0	20.0	35.6
避難所まで避難できるか心配	40.9	44.3	47.7	32.4	0.0	30.5
障害等のある人向けの防災マニュアル、防災マップがない	26.3	35.7	32.8	26.5	20.0	10.2
避難を支援してくれる人がいない	19.4	24.3	23.6	23.5	20.0	8.5
医療を受けられるか分からない	17.7	37.1	19.0	14.7	0.0	7.9
災害や避難に関する情報が得られるか心配	14.3	18.6	16.7	8.8	0.0	9.6
市の緊急速報メールを受信できるか分からない	7.7	7.1	10.1	11.8	0.0	2.8
避難場所が分からない	5.4	10.0	5.7	5.9	0.0	2.8
呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない	5.1	14.3	5.5	5.9	0.0	1.1
その他	9.4	10.0	10.6	8.8	0.0	7.3
無回答	9.4	8.6	6.6	11.8	60.0	11.9

## 府中市民のノーマライゼーションの理解

共生社会（ノーマライゼーション）が府中市民に十分理解されているかたずねました。

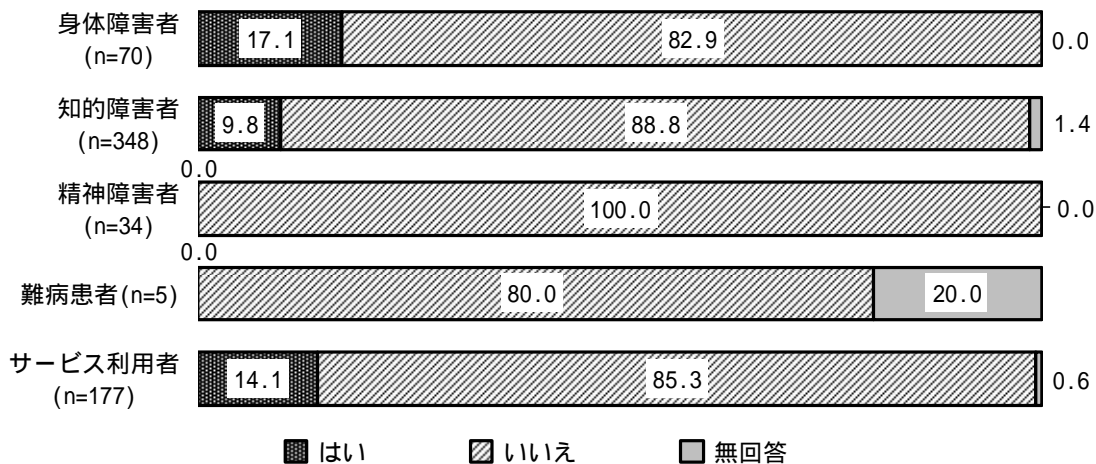
- 共生社会（ノーマライゼーション）が理解されている「はい」の割合は、11.2%、「いいえ」87.6%である。

(%)



- 障害等の種類別では、「いいえ」は、身体障害者は82.9%、知的障害者は88.8%、精神障害者は100.0%、難病患者は80.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は85.3%である。

(%)



## 必要とする合理的配慮

役所、学校、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を必要としているかたずねました。

- ・ 身体障害者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」(57.1%)が最も多い。
- ・ 知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」(51.7%)が最も多い。
- ・ 精神障害者は「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」(76.5%)が最も多い。
- ・ 難病患者は「お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く」(60.0%)が最も多い。
- ・ 児童通所・障害福祉サービス利用者は、「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」(62.7%)が最も多い。

	(%)					
	全体 (N=651)	身体障害者 (n=70)	知的障害者 (n=348)	精神障害者 (n=34)	難病患者 (n=5)	サービス利用者 (n=177)
お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する	54.2	55.7	50.0	52.9	40.0	62.7
お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける	51.6	38.6	49.4	76.5	20.0	57.6
ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける	51.3	25.7	51.7	73.5	20.0	58.2
障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする	50.5	57.1	48.0	52.9	40.0	53.1
障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる	48.5	40.0	50.3	67.6	40.0	45.8
障害や疾病等の特性に応じて、教室や会場の座席の位置を決める	37.5	44.3	35.6	55.9	40.0	36.2
伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける	36.7	22.9	34.2	55.9	20.0	44.6
物の位置を分かりやすく伝える	30.0	12.9	29.0	38.2	0.0	38.4
音や肌触り、室温など感覚面の環境調整を行う	29.2	22.9	27.3	44.1	20.0	34.5
移動を手伝う(段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など)	28.7	38.6	29.6	23.5	20.0	25.4
車いすなどを利用しているお子さんが利用しやすいよう机の高さなどに配慮する	25.2	32.9	23.0	23.5	40.0	27.7
漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする	22.7	5.7	25.9	29.4	0.0	22.6
お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く	22.6	24.3	20.4	20.6	60.0	26.6
収納を手伝う(手の届きにくいところにあるものをとる、しまうなど)	18.4	21.4	14.9	23.5	0.0	24.3
その他	6.0	1.4	7.2	11.8	0.0	4.0
分からない	2.6	4.3	2.3	0.0	20.0	2.3
無回答	3.5	1.4	4.6	0.0	20.0	1.7

## 充実を望む施策

障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんの施策について、  
市に充実を望む施策をたずねました。

- ・ 身体障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」(身体：57.1%、サービス利用：74.6%)が最も多い。
- ・ 知的障害者と精神障害者は、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」(知的：66.7%、精神：61.8%)が最も多い。

カテゴリー名	(%)					
	全体 (N=651)	身体障害者 (n=70)	知的障害者 (n=348)	精神障害者 (n=34)	難病患者 (n=5)	サービス 利用者 (n=177)
ライフステージに合わせた、 切れ目のない支援をすること	58.7	57.1	52.9	55.9	20.0	74.6
障害等のある人の働く場の確保や 就労の定着を図ること	57.1	50.0	66.7	61.8	20.0	43.5
障害等のある人や育ちや発達 が気になるお子さんが受診し やすい医療体制を充実すること	41.2	40.0	35.9	44.1	0.0	52.5
利用できる通所施設を整備 すること	40.7	25.7	40.5	20.6	40.0	52.0
障害等のある人の自立生活 をめざした取り組みが 家庭・学校・地域で行われ ること	39.8	42.9	35.9	58.8	20.0	44.1
各種相談事業を充実する こと	38.7	27.1	37.4	32.4	40.0	48.0
障害等のある人や育ちや 発達に気になるお子さん に対する暴力や差別をなく すこと	32.1	27.1	30.5	32.4	20.0	36.7
グループホームを充実 すること	22.1	2.9	35.3	17.6	0.0	7.3
外出時の移動支援サー ビスを充実すること	19.4	20.0	27.6	8.8	0.0	6.8
障害等のある人が住宅 を確保しやすくなるよう 図ること	18.7	22.9	22.7	26.5	20.0	7.3
障害等のある人や育ち や発達に気になるおこ さんのための短期入所 を充実すること	18.4	15.7	23.0	8.8	0.0	14.7
権利擁護事業や成年後 見制度の取り組みの充 実を図ること	16.9	4.3	24.4	8.8	0.0	9.0
精神状態の不安定に対 する支援の充実	15.8	11.4	15.2	32.4	20.0	15.8
ホームヘルパーの派遣 など在宅生活支援サー ビスを充実すること	14.4	18.6	17.8	8.8	40.0	6.8
補装具・日常生活用具 給付事業を充実する こと	10.3	37.1	10.1	0.0	20.0	2.3
視覚・聴覚などの障害 に配慮した情報提供を 充実すること	5.5	17.1	3.4	2.9	0.0	6.2
その他	6.3	7.1	6.3	11.8	0.0	5.6
分からない	1.5	0.0	2.0	0.0	20.0	1.1
無回答	1.8	1.4	1.4	0.0	20.0	0.6

### (3) 障害者福祉団体調査

#### 活動するうえでの困りごと

障害者福祉団体が活動するうえで困っていることをたずねました。

- ・ 「後継者問題」が7団体(87.5%)で最も多く、次いで「財政的支援」が4団体(50.0%)、「活動場所の確保」、「社会の認識」、「人的支援」がそれぞれ3団体(37.5%)となっている。

(N=8)	団体数	割合(%)
事業の企画	2	25.0
運営方法	0	0.0
活動場所の確保	3	37.5
会員の意識	2	25.0
後継者問題	7	87.5
社会の認識	3	37.5
ネットワークづくり	1	12.5
行政支援	0	0.0
財政的支援	4	50.0
人的支援	3	37.5
その他	1	12.5
特にない	0	0.0
無回答	0	0.0

#### 自由回答では

##### 市の相談体制について

- ・ 切れ目のない相談体制やいつでも相談できる環境、他分野との連携、相談や窓口における職員の専門性や質が求められている。また、障害者福祉団体への情報提供のあり方や当事者同士の相談環境のほか、一般市民の精神保健の相談窓口の充実についても期待されている。

##### 地域共生社会に向けた市民向けの意識啓発の取り組み

- ・ 学習会や講演会などを通しての啓発、市や社会福祉協議会の事業への参加を通じた啓発活動などの回答があった。

##### 障害者に対する合理的配慮として特に必要なこと

- ・ 障害に対する理解促進、当事者の立場に立った支援、障害特性を踏まえた情報提供のあり方、施設設備が求められている。また、教育環境では設備や人的配置の配慮、インクルーシブ教育が望まれている。

##### 市の障害福祉施策への意見・要望

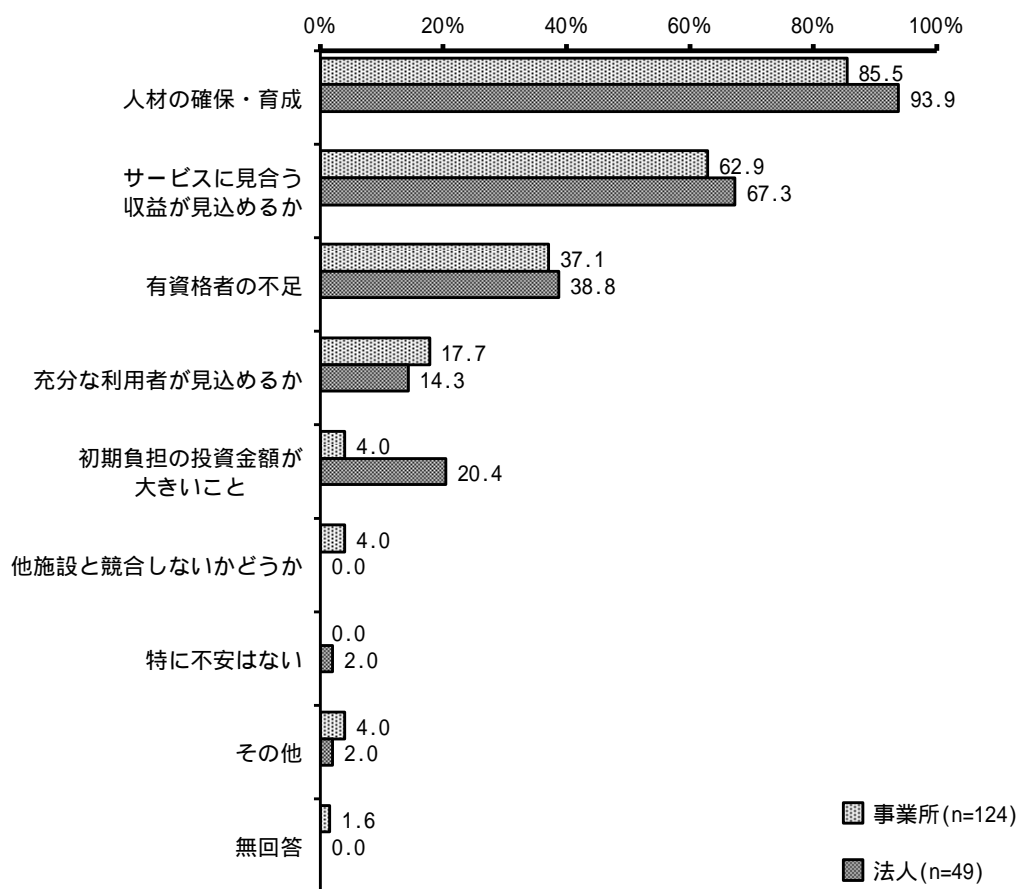
- ・ 就労支援、人材の確保・育成、情報提供のあり方や障害等のある人の意見を聞く取り組みなどの幅広い意見が寄せられている。

## (4) 障害福祉サービス事業所調査

### 運営上の不安

事業所または法人のいずれかの立場から、運営上の不安たずねました。

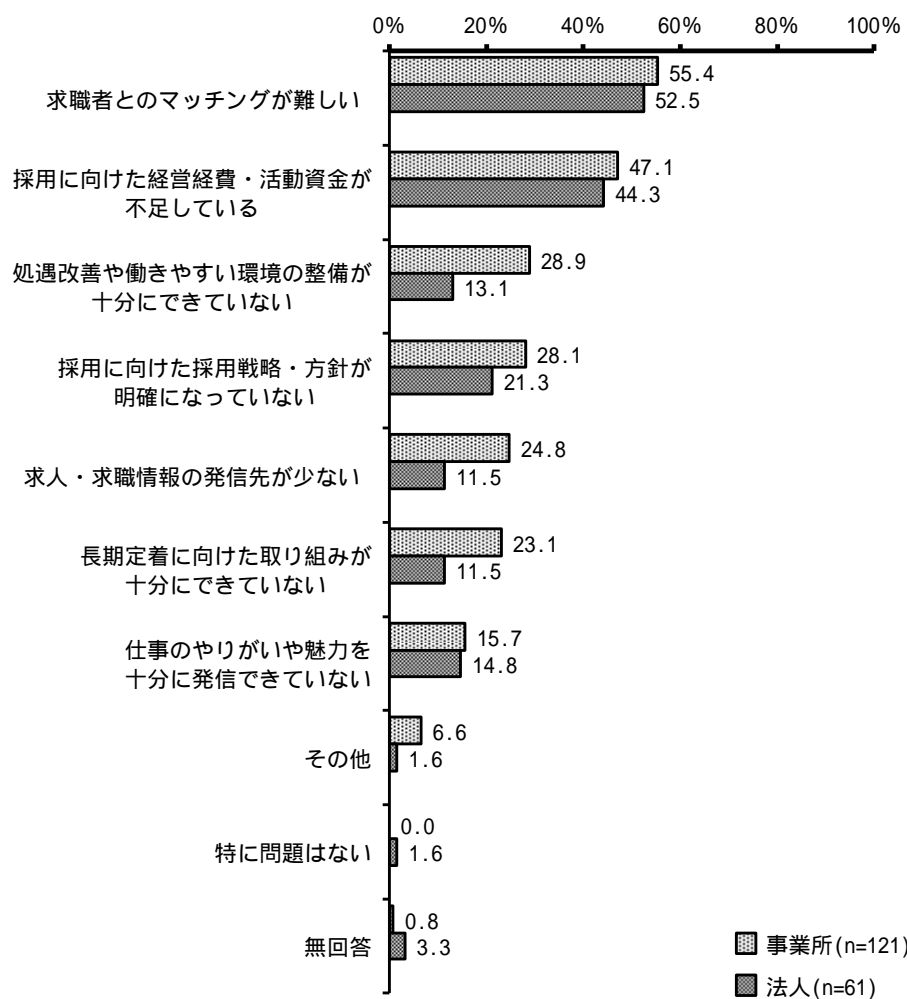
- ・ 事業所は「人材の確保・育成」(85.5%)が最も多く、「サービスに見合う収益が見込めるか」(62.9%)、「有資格者の不足」(37.1%)が続いている。
- ・ 法人は「人材の確保・育成」(93.9%)が最も多く、次いで「サービスに見合う収益が見込めるか」(67.3%)、「有資格者の不足」(38.8%)が続いている。



## 人材確保に向けての課題

事業所または法人のいずれかの立場から、人材確保に向けての課題についてたずねました。

- ・ 事業所は「求職者とのマッチングが難しい」(55.4%)が最も多く、次いで「採用に向けた経営経費・活動資金が不足している」(47.1%)、「処遇改善や働きやすい環境の整備が十分にできていない」(28.9%)が続いている。
- ・ 法人は「求職者とのマッチングが難しい」(52.5%)が最も多く、次いで「採用に向けた経営経費・活動資金が不足している」(44.3%)、「採用に向けた採用戦略・方針が明確になっていない」(21.3%)が続いている。



### 自由回答では

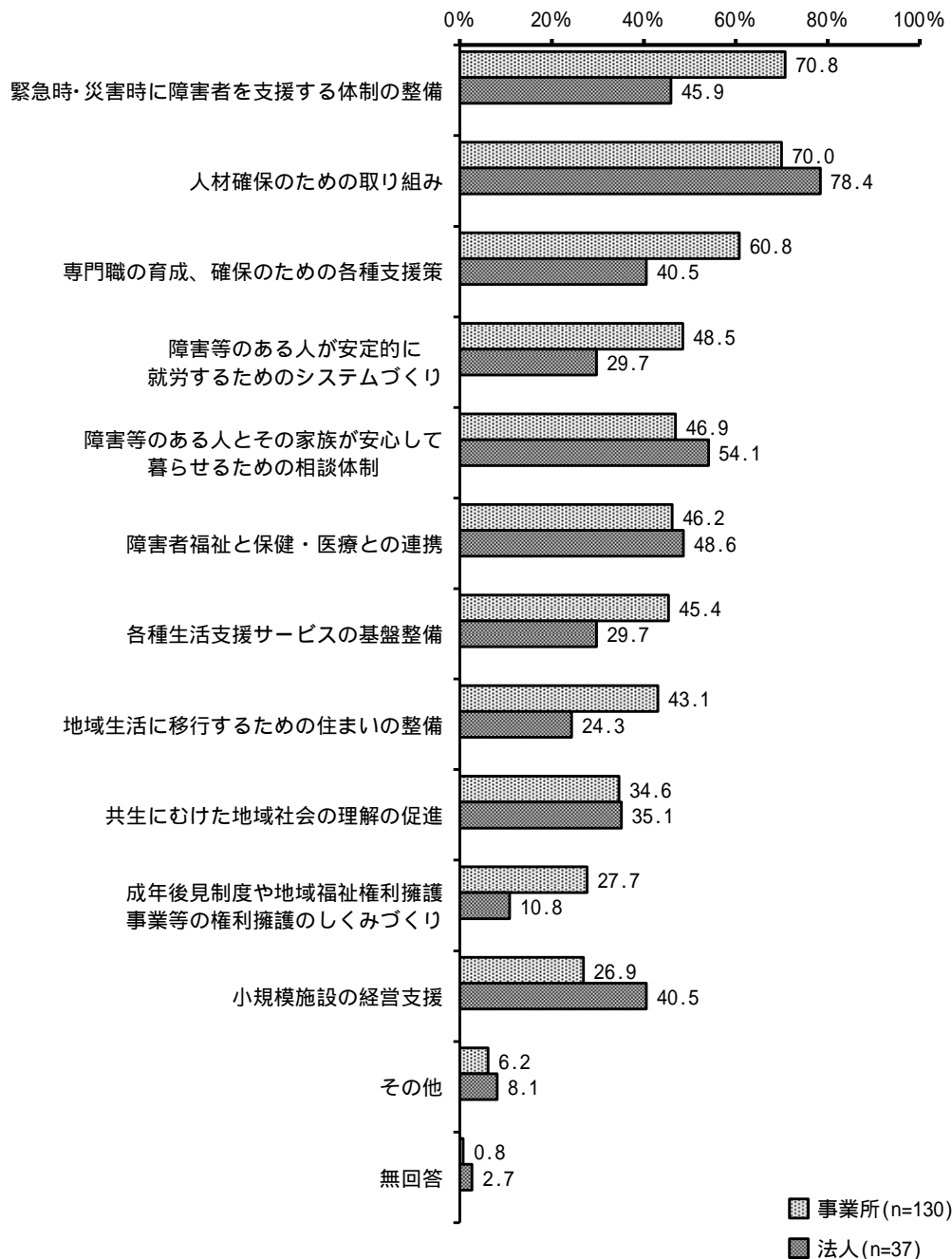
#### 地域共生社会に向けた市民向けの意識啓発の取り組み

- ・ 地域共生社会の実現に向けて、事業所ができることとして、講演会、研修会、出前講座などに関する、情報提供に関する、交流、場の提供に関する、地域との関係づくりに関する、災害時の支援に関する、雇用促進に関する、ボランティアの受け入れに関するなどの記述があった。

## 障害福祉サービスの充実に向けて必要なこと

事業所または法人のいずれかの立場から、これからの府中市の障害福祉サービスの充実に向けて、どのようなことが必要かたずねました。

- ・ 事業所は「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備」(70.8%)が最も多く、「人材確保のための取り組み」(70.0%)、「専門職の育成、確保のための各種支援策」(60.8%)が続いている。
- ・ 法人は「人材確保のための取り組み」(78.4%)が最も多く、「障害等のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制」(54.1%)、「障害者福祉と保健・医療との連携」(48.6%)が続いている。





## 4 分野別調査の共通質問結果

### 近所づきあいの現状

近隣に住む人と、どの程度おつきあいしているかたずねました。

- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、要支援・要介護認定者調査（利用者）及び要支援・要介護認定者調査（未利用者）は、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」が最も多く、一般市民調査、要支援・要介護認定者調査（施設入所者）、障害等のある人への調査、子どもの育ちや発達に関する調査は「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が最も多くなっています。
- ・ 「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合は、子どもの育ちや発達に関する調査で20.7%と最も高く、次いで要支援・要介護認定者調査（未利用者）で17.0%、要支援・要介護認定者調査（利用者）で15.6%と続いています。

（%）

			個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話は無いが、顔を見れば近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答	
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	9.3	33.5	43.6	5.9	7.0	0.8	
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	13.0	42.1	34.1	4.9	3.2	2.8	
	要支援・要介護認定者調査	利用者	(n=1,223)	15.6	35.3	32.1	6.6	5.0	5.4
		施設入所者	(n=361)	6.9	21.6	23.3	10.5	11.6	26.0
		未利用者	(n=418)	17.0	43.8	24.2	5.0	4.3	5.7
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	7.6	19.5	34.9	11.6	12.4	14.0	
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	20.7	30.4	34.5	8.0	4.9	1.5	

### 悩みや困りごとを相談できる人の有無

悩みや困りごとを相談できる人がいるかたずねました。

- 「いる」の割合は、すべての調査で8割以上となっているが、特に介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は92.8%と高くなっています。

(%)

			いる	いない	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	83.3	14.2	2.5
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	92.8	2.3	4.9
障害者福祉分野	障害等のある人への調査	(n=1,419)	84.5	11.5	4.0
	子どもの育ちや発達に関する調査	(n=651)	87.7	10.8	1.5

### 認知症に対するイメージ

認知症に対してどのようなイメージを持っているかたずねました。

- 一般市民調査は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が38.6%で最も多く、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が36.5%で最も多くなっています。
- 「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合は、一般市民調査は38.6%、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は23.5%と15ポイントの差があります。

(%)

			認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまふ	無回答
地域福祉分野	一般市民調査	(n=1,380)	6.2	36.6	38.6	4.0	9.0	5.6
高齢者福祉分野	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	(n=2,571)	11.8	36.5	23.5	3.6	12.2	12.3